

## 7. 水源地域動態



## 7. 水源地域動態

### 7.1 評価の進め方

#### 7.1.1 評価方針

水源地域動態の評価は大きく2つの流れの評価を行う。一つは、地域との関わりという点で、ダム建設から管理以降、現在までのダム事業を整理するとともに、地域情勢の変遷を整理し、地域においてダムがどのような役割を果たしてきたか、今後の位置づけはどのように考えていくべきか等についての評価を行う。

もう一つの流れとして、ダム周辺整備事業とダム及びダム周辺の利用状況から評価を行うものである。ダム周辺に整備された施設等が十分に利用されているものとなっているか、又は逆に利用状況から見た施設は十分なものとなっているか等の評価を行う。

最後にこれらをまとめ、ダム及びダム周辺の社会的な評価の総括を行い、課題等について検討する。

#### 7.1.2 評価手順

評価方針のとおり大きく2つの流れにより、評価を行い、とりまとめることとする。

検討手順を図7.1.2-1に示す。

##### (1) 水源地域の概況整理

水源地域の地勢や人口等の概要、交通条件や観光施設等のダムの立地特性等の視点から水源地域の概況を把握する。

##### (2) ダム事業と地域社会の変遷

ダム建設が直接地域社会に与えたインパクト、周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等についてダム事業の経緯とともに変遷を年表形式で整理し、ダム事業と地域社会の係わりを把握する。周辺地域の社会情勢、地域の交流活動・イベント等は、ダムの影響とまでは言えないまでも関連がありそうな事項を抽出する。これらのまとめにより、ダムを含めた水源地域としての地域特性を把握する。

##### (3) ダムと地域の関わりに関する評価

ダムと地域との関わりとして、(2)をもとに、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」等も参考にしながら、地域におけるダムの位置づけについて考察を行う。さらにダム管理者と地域の関わりとして、至近5ヶ年程度のダム管理者と地域の交流事項等について整理し、管理者の活動等について評価する。

##### (4) ダム周辺の状況

ダムの周辺環境整備計画を整理するとともに、現況の整備状況等について整理を行い、加えて、「地域に開かれたダム」や「水源地域ビジョン」により新たに整備された施設等についても整理する。

なお、原則は、「水源地域対策特別措置法」で整備した施設等は評価対象としないが、ダム事業と一体となって整備した施設等は含めることとする。

また、施設入り込み数、イベント開催状況等から周辺の利用状況を整理し、利用に関する評価を行う。

#### (5) 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果より、ダム周辺施設の年間利用者数、利用形態等についても整理する。また、アンケート調査結果から、利用者がどのような感想をもっているかについても整理し、利用者の視点からのダム周辺施設（環境整備）の評価を行う。

#### (6) その他関連事項の整理

水源地域の社会動態に関する既往検討資料、または景観検討資料、施設の維持管理に関する検討資料等、関連する資料があれば整理する。

#### (7) まとめ

以上より、地域とダムの関わり、ダムの利用状況に関する評価結果をまとめ、ダムの特徴、課題等について整理する。また、負の評価結果となった事項があれば、これらについて要因を整理し、極力改善策等の提案についてとりまとめるものとする。

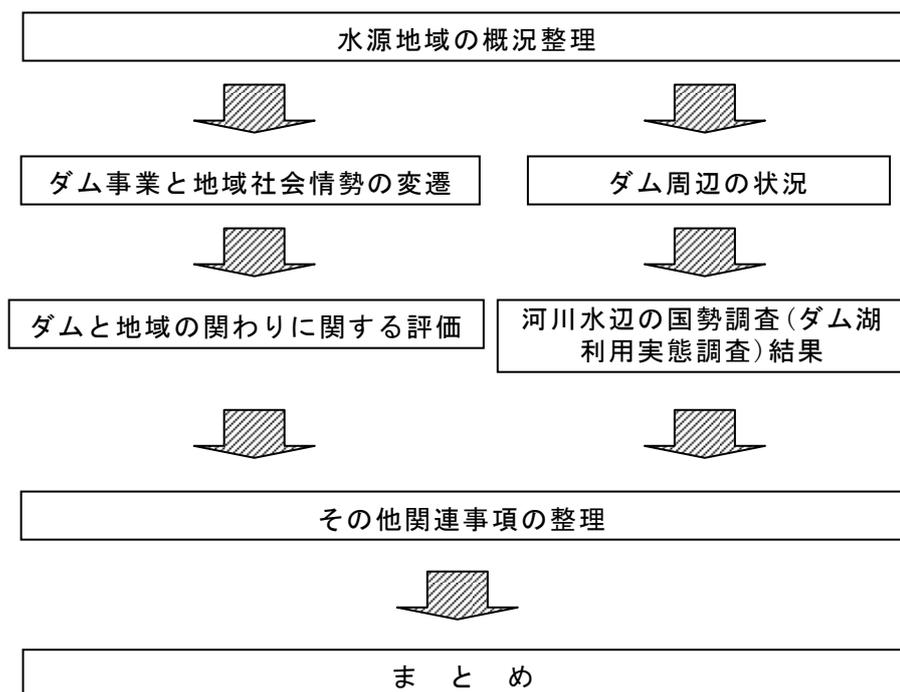


図 7.1.2-1 検討手順

#### 7.1.3 必要資料(参考資料)の収集・整理

ダム周辺の社会情勢、利用、整備状況等に関わる資料等、まとめに必要となる資料について収集し、リストを作成する。収集した資料は「7.9 文献リストの作成」において整理する。

## 7.2 水源地域の概況

### 7.2.1 水源地域の概要

#### (1) 水源地域の概況

日吉ダム及び日吉ダムの水源地域は京都府内に位置している。貯水池周辺は南丹市、上流域の殆どは京都市となっている。

南丹市は平成18年1月1日に園部町、八木町、日吉町、美山町の4町が合併し誕生した。また、京北町は平成17年4月1日に京都市と合併している。

なお、旧自治体では、京都市、旧日吉町、旧八木町、旧京北町の1市3町が水源地域を構成していた。

水源地域を構成する自治体を図7.2.1-1に示す。

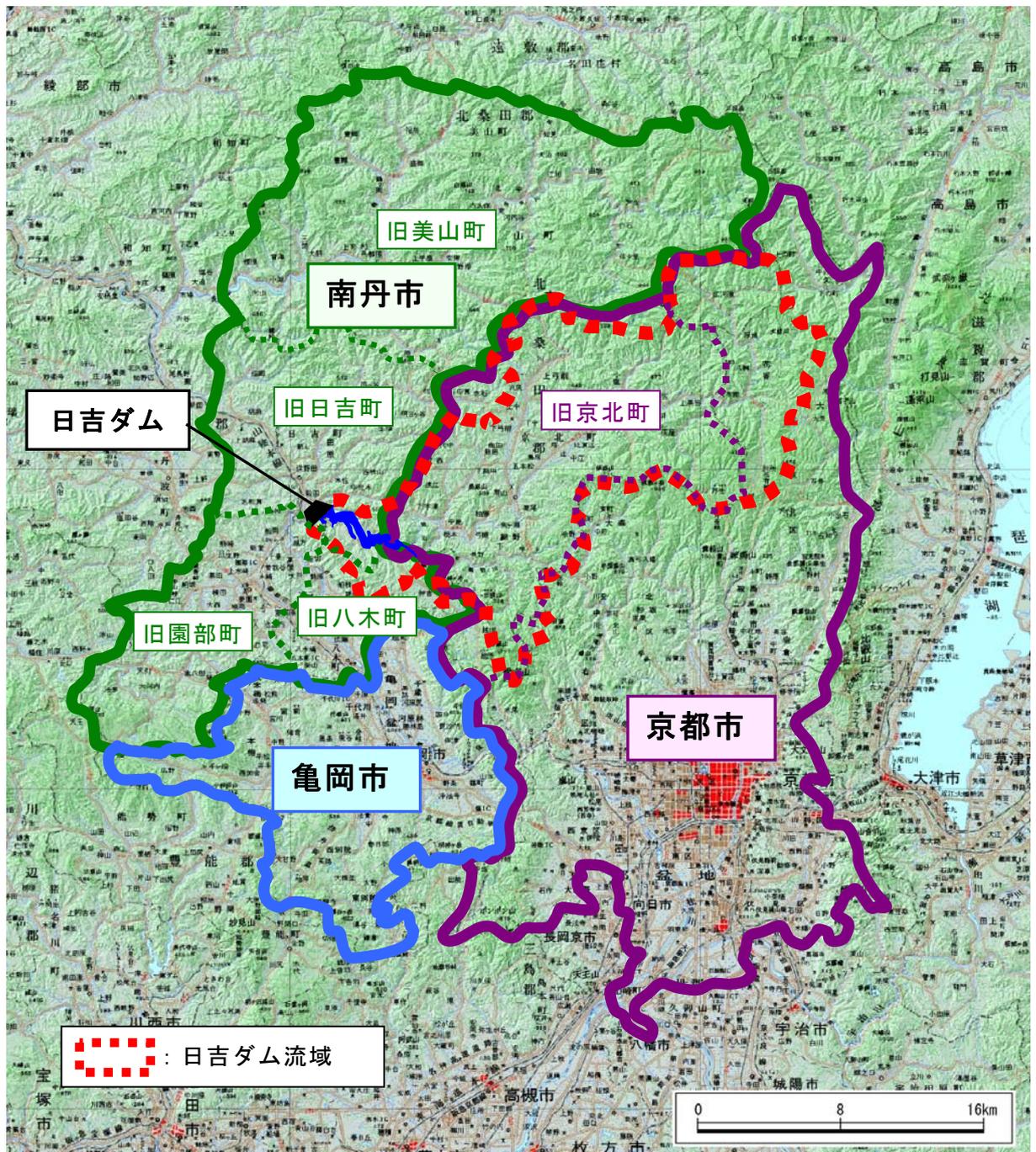


図 7.2.1-1 水源地域を構成する自治体

## (2) 人口の推移

日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口推移は、昭和 55 年から平成 22 年の間に、旧京都市では 1,408 人増加となったが、旧京北町では 1,679 人減少、旧八木町が 2,664 人減少、旧日吉町が 1,188 人減少となった。

人口推移を、表 7.2.1-1 及び図 7.2.1-1 に示す。

表 7.2.1-1 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口推移(単位:人)

	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
京都市計	1,473,065	1,479,218	1,461,103	1,463,822	1,467,785	1,474,811	1,474,473
うち日吉ダム流域内	581	526	486	490	466	448	459
旧京北町	7,312	7,184	7,087	7,080	6,686	6,257	5,633
うち日吉ダム流域内	7,043	6,943	6,850	6,869	6,489	6,089	6,082
旧八木町	10,802	10,624	10,290	9,905	9,391	8,869	8,138
うち日吉ダム流域内	0	0	0	0	0	0	0
旧日吉町	6,634	6,310	5,862	6,207	6,219	5,951	5,446
うち日吉ダム流域内	473	0	0	0	0	0	0

【出典：国勢調査結果、市町計；総務省、流域内人口；平成 20 年度流域環境調査報告書(H21.3, 日吉ダム管理所)】

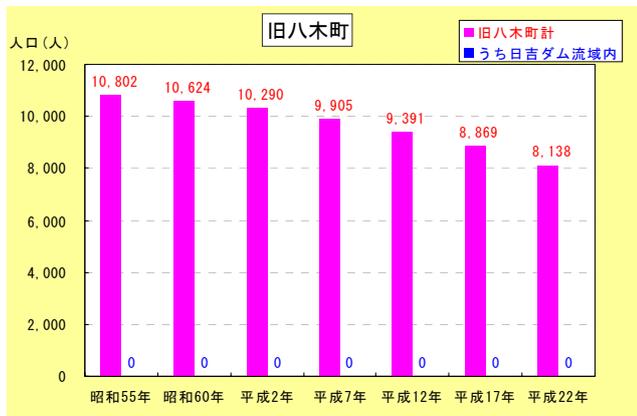
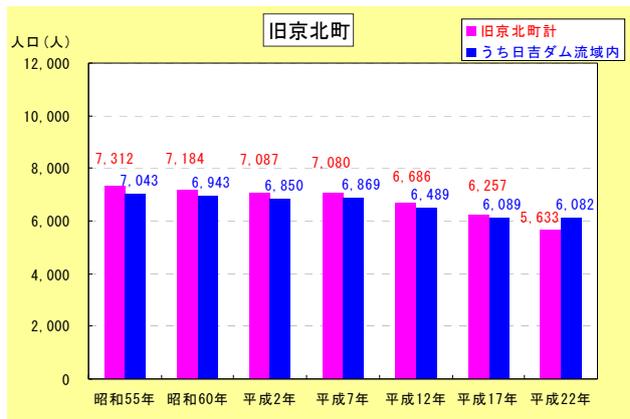


図 7.2.1-1 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の人口推移

また、日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業人口の推移は、基幹産業が第一次産業であった旧京北町、旧八木町、旧日吉町では、昭和55年から平成17年までで第一次産業の就業者人口は約半数、又はそれ以下に減少している。

旧自治体の産業別就業人口の推移を、表7.2.1-2及び図7.2.1-2に示す。

表7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数の推移(単位：人)

		昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
京都市	第一次産業	8,683	8,093	6,766	6,742	5,799	5,912
	第二次産業	232,493	220,202	222,419	203,008	180,776	155,460
	第三次産業	443,014	460,718	474,337	502,317	489,532	504,066
旧京北町	第一次産業	1,071	856	651	603	504	435
	第二次産業	1,183	1,082	1,070	1,007	802	707
	第三次産業	1,577	1,634	1,651	1,790	1,774	1,742
旧八木町	第一次産業	1,155	966	815	681	604	602
	第二次産業	1,578	1,597	1,655	1,668	1,393	1,076
	第三次産業	2,765	2,677	2,716	2,670	2,555	2,619
旧日吉町	第一次産業	948	664	547	573	391	443
	第二次産業	1,038	1,073	998	1,071	918	795
	第三次産業	1,425	1,369	1,304	1,520	1,523	1,621

【出典：国勢調査報告(総務省統計局)】

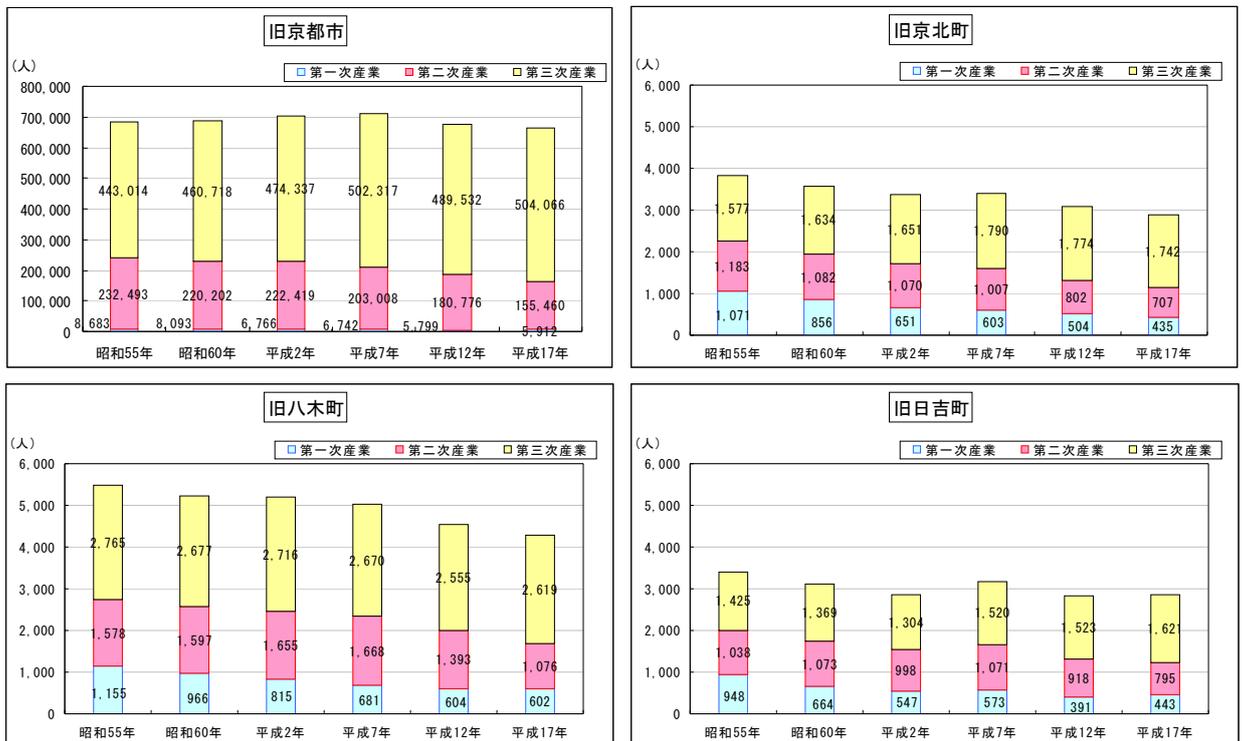


図7.2.1-2 日吉ダム水源地域を構成する旧自治体の産業別就業者数の推移

### (3) 観光入込客数

日吉ダムが存在する旧日吉町（現 南丹市）の近年の観光入込客数は、日吉ダム完成後の平成 10 年以降に急激に増加していることから、旧日吉町を訪れる観光客の多くはダム周辺施設の来訪者が多く占めているものと推察され、日吉ダムの完成は水源地域の活性化に大きく寄与しているものと考えられる。

なお、平成 18 年以降は、南丹市に合併したことにより、南丹市全体のデータを使用して整理した。

旧日吉町の入込客数を図 7.2.1-3 に示す。

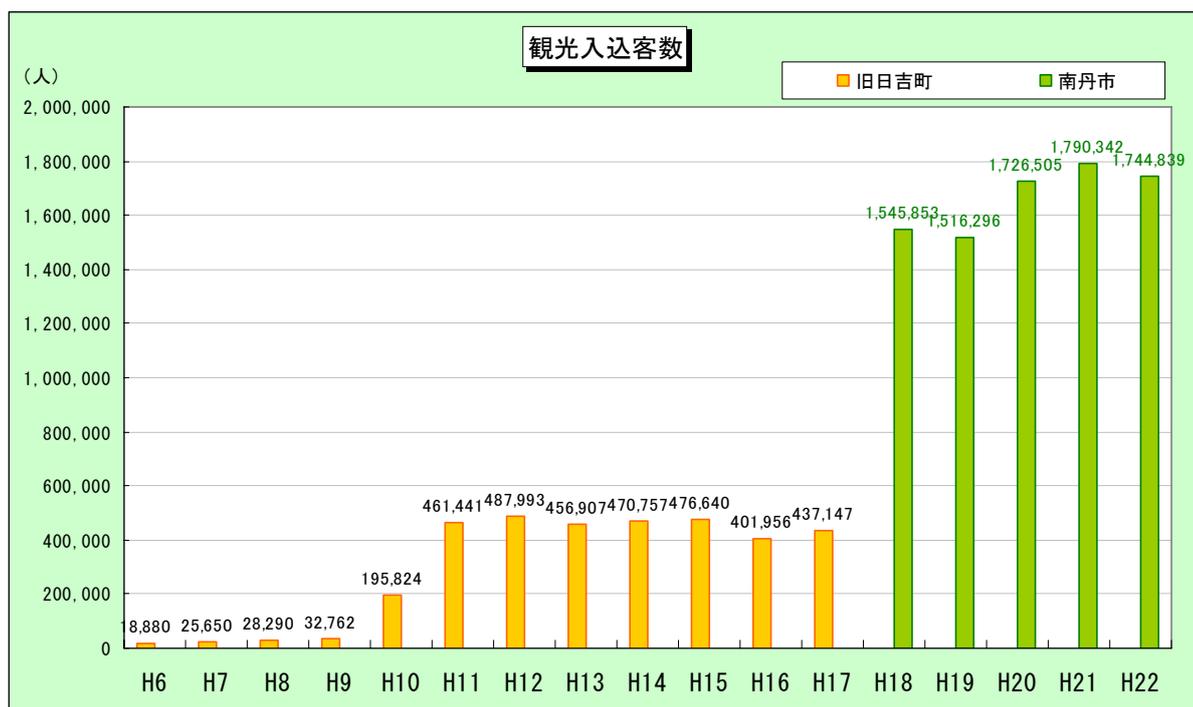


図 7.2.1-3 旧日吉町（現 南丹市）の観光入込客数の推移

#### (4) 土地利用と産業

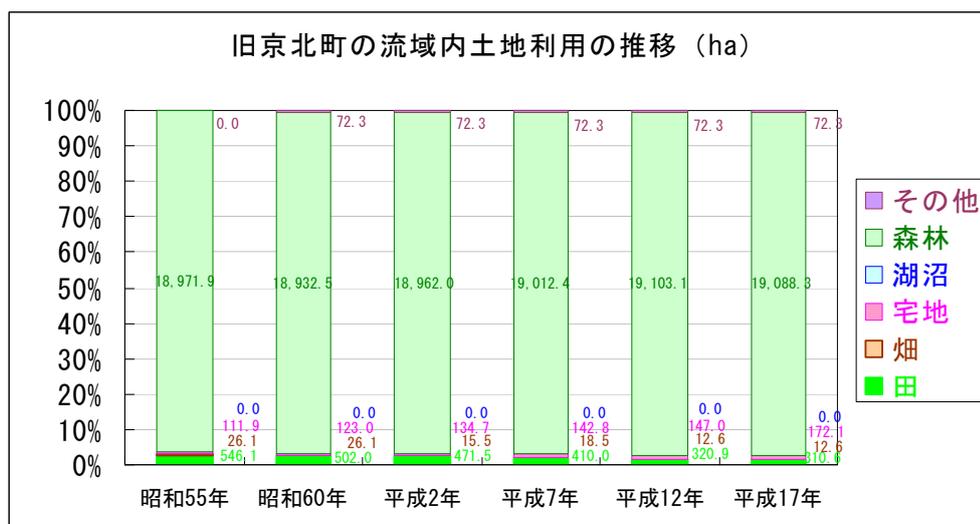
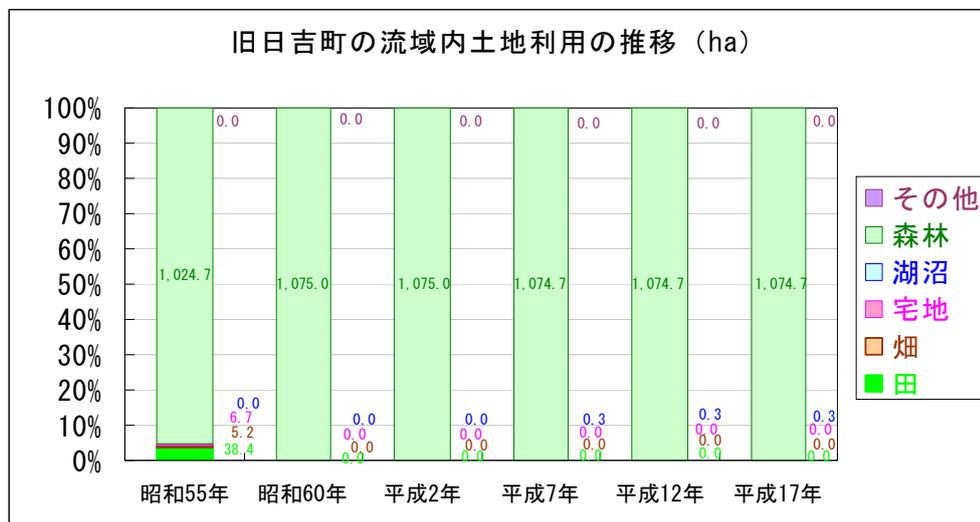
水源地域の大部分を占める旧日吉町と旧京北町は、山林が全体の殆どを占めている。旧日吉町では平成 60 年より水源地域内の土地利用が森林のみとなっており、農地や宅地面積が 0ha となっている。

日吉ダム水源地域は、全国でも屈指の林業地となっている。中世より御所への木材を貢納していた禁裏御料地で、京都への木材供給地として栄えてきた地域である。苗木づくりから植林、保育、伐採、搬出に至るまで、長い歴史に裏付けられた知識と技術によって、スギ、ヒノキを中心とする優良な木材を生産している。また「北山杉」で知られる磨丸太の産地としても有名で、工芸品や杉葉染などが特産品となっている。

また、農業では豆類の栽培が盛んで、納豆などの加工食品も特産品に挙げられる。

旧日吉町と旧京北町の流域内の土地利用の推移を図 7.2.1-4 に示す。

【出典：京都市 HP】



【出典：平成 20 年度流域環境調査報告書(平成 21 年 3 月, 日吉ダム管理所)】

図 7.2.1-4 旧日吉町・旧京北町の流域内の土地利用の推移



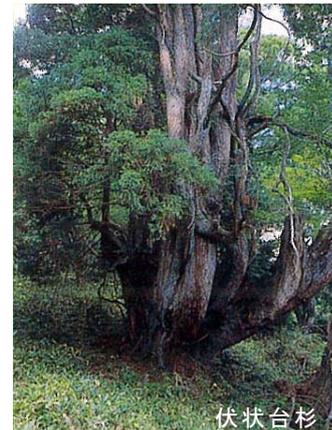


表 7.2.2-1 周辺地域の主な観光施設の概況

旧町名	観光施設名	概要
旧日吉町	かやぶき音楽堂 	毎年春と秋の2回、それぞれ2～3日間ずつコンサートが行われている。
	多治神社 	毎年5月3日に、五穀豊穰を祈願して行われる「御田」と呼ばれる御田植えまつりが有名である。
	日吉青少年の山の家 	研究室や食堂、バーベキューハウス、テニスコート、キャンプ場があり、林に囲まれた小川のある環境は抜群。家族連れや合宿にも最適である。
	日吉神社 	毎年10月に、厄払いと五穀豊穰を祈願して馬駆けが行われる。
旧京北町	京北ふれあい朝市 	活気とあたたかさがあふれる朝市は、いろいろな人達との交流とふれあいの場所となっている。
	ウッディー京北 	森林・林業と木製品とのふれあい、学びあいの展示館。
	滝又の滝 	高さ25mの滝の眺めは壮観で、四季おりおりの風景は格別。
	森林公園 	豊かな緑と澄み切った空気の中、森林浴で心も体もリフレッシュ。
	常照皇寺 	天然記念物「九重桜」
	伏状台杉 	片波川源流域一帯は、今日まで大切に残されてきた西日本屈指の巨大杉群落の森。
旧八木町	氷室の郷 	木工室や紙すき室があり、農村文化の体験ができる。
	八木町花火大会 	毎年8月に大堰川河川敷にて行われる。
	パラグライダー練習場 	自然の地形を利用したフライトコースがあり、のんびりと空中散歩が楽しめる。
	龍興寺 	京都の龍安寺、龍潭寺とともに京都三龍に数えられている。
	清源寺 	千体仏造像のために各地を遍歴した木喰（もくじき）上人の十六羅漢像が安置されている。



滝又の滝



伏状台杉



八木町花火大会

### 7.3 ダム事業と地域社会情勢の変遷

日吉ダム事業の進行と相まって、周辺の道路事業が進められたことにより、利便性が向上している。日吉ダム完成後のダム周辺でのイベント（の継続）や、「スプリングスひよし」などへの来訪にも効果的であったと考えられる。

日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷を表 7.3-1 に示す。

表 7.3-1(1) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (1959年-1981年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
1959年				伊勢湾台風(台風15号)、亀岡総雨量148ミリ(25日10時-26日24時)、保津橋最高水位6.4m(27日4時)、家屋全半壊10戸、浸水398戸、湛水600万トンで田畑被害520ha
1960年				台風15号
1961年				建設省、宮村ダム(日吉ダム)建設構想を発表(堰堤高さ70.4m、巾430m、貯水容量6,600万 $m^3$ 、計画流量2,200 $m^3/s$ ) 水資源開発促進法、水資源開発公団法公布(公団昭和37.5.1発足)
1963年				亀岡市議会、上桂川逆流対策特別委員会設置(昭和39.8上桂川治水対策特別委員会と改称)
1964年			船井郡産業まつり	京都市、亀岡市、上桂川改修期成同盟会に加盟 台風20号により8,000万円の被害を受ける
1965年			町合併10周年記念式典を園部中学校講堂で挙げる	府、近畿地建「上桂川治水調整全体計画」策定 台風23号、24号、9.14大雨により被害額3億3千万円
1966年		府道園部篠山線(河原町-天引)舗装完成祝賀会 園部電報電話局舎新築、電話交換機が自動化 船岡駅行き違い線路完成		園部・摩気・西本梅・川辺の4農協が合併し園部農業協同組合が発足
1967年				京都府下暴風雨
1968年		熊原簡易水道完成式		近畿地建、桂川治水対策「日吉ダム建設計画」を地元へ説明 淀川水系工事実施基本計画改訂、枚方の基本高水17,000 $m^3/s$ 、計画高水流量12,000 $m^3/s$
1969年		船岡簡易水道起工式		園部区を三つの行政区(小桜町・美園町・栄町)に分ける
1970年		船岡簡易水道完成通水始まる	町合併15周年記念式典を園部中学校体育館で挙げる 町の花に「梅」を選定 第1回産業まつり開催	
1971年	3月日吉ダム実施計画調査開始			町内3森林組合(園部・摩気・西本梅)が合併、役場内で業務開始
1972年	9月基本計画決定 宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。 宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。	宮村ダム建設、水資源開発法による「淀川水系水資源開発基本計画」に組入れ、日吉ダムと改称。		台風20号 京北地方被害大 豪雨により8,000万円の被害 台風20号により2億6,000万円の被害
1973年	1月水資源開発公団日吉ダム調査所開設			
1975年		姫路京都間が国道に昇格(国道372号) 高杭峠(小山西-口人)改修工事完成	第1回園部町文化祭を開催	西部簡易水道(船版)給水開始
1976年			夏の商工祭「花火大会」が中止となり、「水と光の祭典」となる	
1977年		高屋峠の第1次拡幅切り下げ工事完成 高屋峠改修工事完成	生身天満宮「管公神忌1075年大祭」	
1978年		大河内簡易水道給水開始 普及率91.5%	船岡駅開設25周年記念式典挙げる	大干ばつ、被害額6,000万円
1979年		東部簡易水道完成	中央公民館竣工記念文化祭を挙げる	
1981年		原山峠(園部町竹井-篠山町原山)改良工事完成 高杭峠(小山西-口人)舗装工事完了 大見谷峠(園部町大戸-八木町室河原)改良工事完成 天引簡易水道改良工事完成 国道9号バイパス起工式	町合併25周年記念式典を中央公民館で挙げる	日吉ダム水没者団体(日吉ダム対策天若同盟、中ダム対策協議会)水資源開発公団と京都府に補償基本要請書を提出

表 7.3-1(2) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (1982年-1999年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他	
1982年	8月日吉ダム建設所開設		第1回とんどまつり開催	水資源開発公団「日吉ダム建設事業実施方針」を公表	
	9月実施計画認可		第1回そのべ七夕まつり開催	水資源開発公団、日吉・八木・京北の水没者団体に損失補償基準を提示	
					口丹波地方6年ぶりの記録的大雪に見舞われる
					台風10号口丹波地方に大被害をもたらす
1983年		大河内簡易水道完成	第1回はばたく園部のスポーツ推進大会を開催	台風10号の豪雨により2億円の被害	
		山陰本線複線電化事業のひとつ、地蔵トンネル貫通			
1984年	9月一般損失補償基準妥結(日吉町及び京北町)		第20回記念園部町球技大会	日吉ダム水没補償につき地元住民と水資源開発公団と基本的合意(9月19日調印)	
				30年ぶりに府南部に大雪警報、口丹波地方は記録的な大雪	
1985年	6月一般損失補償基準妥結(八木町)	国道9号バイパス新老ノ坂トンネル貫通	新園部町発足30周年記念式典を中央公民館で挙げる		
			85そのべ夏まつりで10年ぶりに花火が復活		
			「宵待ちコンサートinりり溪」を開催		
1988年		京都縦貫自動車道(京都-亀岡市千代川)開通	第1回そのべれんげ祭開催	建設省の「生涯学習のむら建設推進事業」モデル団体の指定を受ける	
		府道川西園部線・町道竹井口司線バイパス開通	第43回国民体育大会京都団体を開催(ライフル射撃・ゲートボール)		
		府道園部能勢線バイパス開通式			
1989年		JR山陰本線(嵯峨-馬堀間)複線化完成			
1990年		法京飲料水供給施設完成 水道普及率100%に	園部町プレ植樹祭をりり溪フラワーガーデンで開催		
		京都縦貫自動車道・熊崎トンネル貫通	町制施行101年・新園部町発足35周年記念式典を挙げる、「マスコットフラワー」を選定発表 KIそのべ世界芸術祭を町中央公民館で開催		
1991年			「第1回とっておきのウォークラリー」開催		
1992年	2月仮排水トンネル工事着手	京都縦貫自動車道・瓜生野トンネル貫通			
		京都縦貫自動車道・新観音トンネル貫通			
1993年	2月公共補償の基本協定締結				
	2月日吉ダム本体工事着手	府道川西園部線が国道477号に昇格	「ねんりんピック'93 京都」開催		
	4月「地域に開かれたダム」指定				
1994年	10月本体コンクリート打設開始	国道372号バイパス(亀岡市宮前町一園部町南八田)開通式			
	11月定礎式		「園部 花と食の祭典」開催		
1995年	2月「地域に開かれたダム整備計画」認定	府道大河内口八田線穴人バイパス開通式	そのべフラワーフェスタinりり溪 第1回スウィートシネマパライズ(映画上映会)開催		
1996年	11月本体コンクリート打設完了	京都縦貫自動車道(亀岡-丹波)開通	園部公園陸上競技場竣工式 園部スポーツフェスティバル・そのべ収穫祭開催	豪雨来襲、町内でも浸水被害相次ぐ	
1997年	3月試験湛水開始		全国高校総体が京都で開催・園部町では男子バレーボール		
	11月試験湛水終了	京都交通二本松線運行開始			
1998年	3月竣工式		第1回日吉ダムマラソン開催		
	4月管理開始 ビジターセンター、インフォギャラリー、スプリングスひよし開設		10月「スプリングスひよし」オープン		
1999年		府道園部能勢線大河内バイパス開通	スプリングスフェスタ開催		
		都市計画道路内林小山東町線が全線開通	全国花と緑のフェスティバルinそのべ		
		町道仁江穴人線開通	本町繁栄会のクリスマス企画「本町ルミナリエ」点灯		

表 7.3-1(3) 日吉ダム事業と地域社会情勢の変遷 (2000年-2010年)

西暦	日吉ダム事業	インフラ整備事業	住民活動・交流活動	その他
2000年		町道横田大西線完成	新園部町発足45周年記念式典を園部国際交流会館で挙行	
2001年		京都縦貫自動車道4車線化(千代川-八木西)・南丹パーキングエリア完成式 府道亀岡園部線船岡道路開通式	第1回そのべビートフェスティバル	
2002年	3月日吉ダム水源地域ビジョン策定	京都縦貫自動車道(八木西-園部)4車線化完成式典		
2003年		JR山陰線京都園部間複線化起工記念式典 国道372号(天引道路)開通式		
2004年		都市計画道路京都光悦線(内林町-瓜生野)通り初め式 農業用道路園部八木線第4工区(小山西町-口人)開通祝賀式		台風23号による集中豪雨、連続降雨量241ミリ
2005年			新園部町発足50周年記念式典を中央公民館で挙行	京北町が京都市に編入合併(4月1日)
2006年			第1回南丹ビートフェスティバル開催	園部町、八木町、日吉町、美山町が合併し、南丹市発足(1月1日) 梅雨の長雨で、各地に被害
2007年	日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)承認	南丹市新バス路線(園部八木線)運行開始	日吉町中世木公民館竣工式 五ヶ荘小学校閉校記念式典 殿田小学校統合式	南丹市総合振興計画「基本構想」を策定 京都新光悦村に進出第1号の工場が完成
2008年				南丹市の花(さくら)・木(ぶな)・鳥(オオルリ)を制定 南丹市ケーブルテレビサービス全域に拡大
2009年	スプリングスひよし入場者250万人達成	八木駅-園部駅間が複線化 農業用道路紅葉山トンネル貫通式	第1回南丹サンサン祭開催	五ヶ荘小学校跡地にふる里ファーム五ヶ荘オープン
2010年	第17回地域に開かれたダム全国連絡協議会現地交流会開催		JR山陰本線複線化開業記念イベント 日吉駅、胡麻駅開業100周年絆式典	ウッディー京北が“京都市初”の道の駅としてオープン 京都、兵庫、鳥取の3府県でドクターヘリ共同運航開始 安心メール@南丹市運用開始

## 7.4 ダムと地域の関わりに関する評価

### 7.4.1 地域におけるダムの位置づけに関する整理

#### (1) 地域に開かれたダム（平成7年2月）の概要

##### 1) 基本理念とコンセプト

日吉ダム周辺環境整備によって“「新しい里」を作り出す”ことを基本的な考え方として、周辺地域の活性化を目標とした「地域に開かれたダム」の基本理念及び整備計画のコンセプトを次のように設定した。

##### 基本理念

「新しい里づくり」  
～風土・自然を基盤とした健康で文化的なまちづくり～

##### コンセプト

##### ○新しい景観・親自然環境の創出

美しさのみならず、新たな景観と訪れる都市の人々が、身近な自然の素顔に接することのできる環境を、地域の風土、自然の中に創出・提供する。

##### ○ウェルネスライフの場の創出

美しい豊かな自然の中で、心身の健康と意義あるライフスタイルと豊かなコミュニケーションネットワークをつくり育てる場とする。

##### ○新しい地域文化の創出

「人と自然」「人と人」が交流し、学び、知ることで、今まで培われてきた地域の歴史、文化の上に新しい歴史、文化の流れを築き、地域への愛着を深め、地域社会、地域文化、地域のアイデンティティーづくりの発展に寄与する。

##### 2) 地域における位置づけ

日吉ダム周辺環境整備事業は、地域活性化の核としての整備が期待されており、地域住民に開かれた形で、ダム湖に接する豊かな山林・原野を活用した、自然緑地・水辺の保全と自然にふれあえる場の創出、水と緑のネットワークづくりに加え、ダム湖周辺のレクリエーション機能の整備・活用を図り、産業の振興、雇用の促進、スポーツ・レクリエーション活動及びさまざまな交流を促進することによって、地域の活性化が期待されている。

また、流域の旧市町村では「地域に開かれたダム」の位置づけを次のようにまとめている。

##### ○旧日吉町

旧日吉町活性化の中心核として豊かな自然を背景に健康で文化的な新しい、魅力的な空間づくりを行い、地域の活性化、若年層の定住化等を推進する。

##### ○旧京北町

旧京北町の重要施策である「溪流の里・清流の里」構想の中心拠点整備を行い、旧京北町西部地域の活性化を促進する。

##### ○旧八木町

旧八木町の重要施策である「大都市近郊型の田園レクリエーションゾーン創出構想」の森林ゾーンの拠点整備の一環として整備を行い、地域の活性化を促進する。

また、平成10年には、日吉ダムが「地域に開かれたダム」に指定されたことを記念し、「ふるさと切手」も発行された。(図7.4.1-1参照)



### 近畿版 ふるさと切手

貯水池周辺を魅力的な余暇活動の場として誰もが自由に利用できる、地域に開かれたダムそれが「日吉ダム」です。4つのゾーン(里・水・森・山)に分れた水と緑のオープンスペース。人々の豊かな生活と、地域の活性化に役立つ「日吉ダム」を題材にふるさと切手を発行します。

ふるさと切手は、平成元年頃から、各地の名所・行事・風物等を題材とした、地方色豊かな切手を発行し、地方の活性化に専念することと、地球に親しめる郵便サービスを提供することを目的として発行するものです。

### 日吉ダム(京都府)

- 種類：80円郵便切手
- 主題：日吉ダム
- 印刷寸法：縦25.0mm・横31.0mm
- 紙式・紙色：アラビヤ色
- シート構成：25枚(縦4枚・横5枚)
- ペーン10枚(シート寸法：縦56.1mm・横180.0mm)
- 定価：80円
- 発行枚数：200万枚、ペーン96万部
- 発行日：平成10年(1998)3月2日(月)
- 原画作者：岩澤重夫

図 7.4.1-1 ふるさと切手

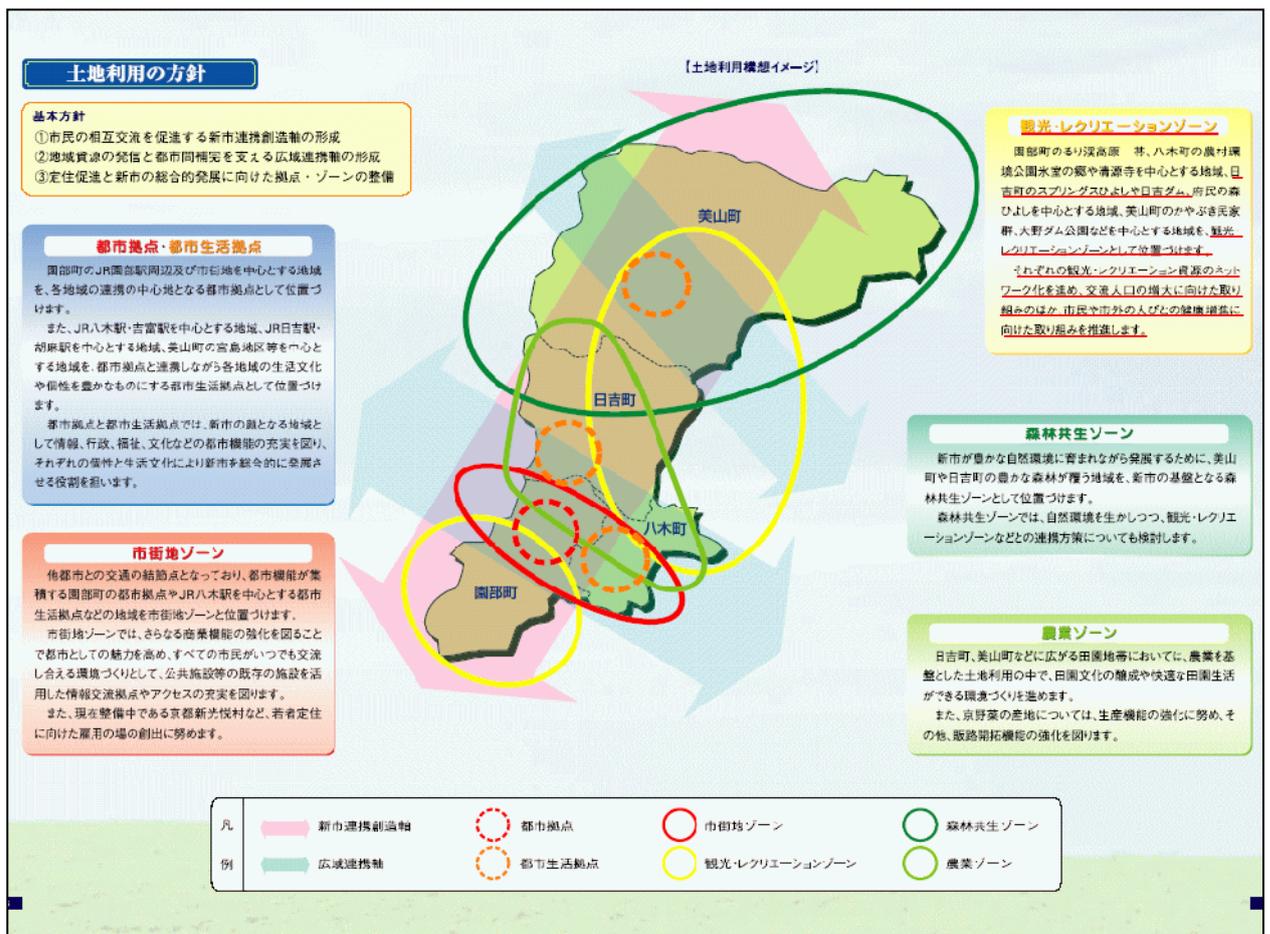
## (2) 南丹市におけるダムの位置づけ

平成 18 年 1 月 1 日に、日吉ダムが立地する旧日吉町、及び周辺の旧八木町、旧美山町、旧園部町の 4 町が合併し「南丹市」が誕生した。

南丹市の「新市まちづくりの基本方針」の中で示された、「土地利用方針」では、日吉ダムを含む周辺の地域を「観光・レクリエーションゾーン」に設定し、観光産業の振興に向けた取り組みを地域として行っていくこととしている。

このように、地域にとって、日吉ダムは観光やレクリエーションなどの場としての役割を担っている。

新市まちづくりにおける土地利用構想イメージを図 7.4.1-2 に示す。



【出典：南丹市 HP】

図 7.4.1-2 新市まちづくりにおける土地利用構想イメージ

## 7.4.2 地域とダム管理者の関わり

「日吉ダム水源地域ビジョン」は、今後の日吉ダム水源地域の更なる発展・機能維持などを目標として、平成14年3月に策定された。

日吉ダム水源地域ビジョンの策定に際しては、京都大学防災研究所池淵周一教授を委員長に、水源地域の自治体、住民代表、関係諸団体、ダム管理者からなる「日吉ダム水源地域ビジョン協議会」を設立し、同協議会で検討、調整の上とりまとめた。

### 1) 日吉ダム水源地域ビジョンの概要

日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージを図7.4.2-1に、水源地域ビジョンの概要を表7.4.2-1に示す。



図 7.4.2-1 日吉ダムの水源地域ビジョンの施策とイメージ

表 7.4.2-1 日吉ダム水源地域ビジョンの概要  
地域に開かれた日吉ダムの新たな展開

ダム湖周辺地域の整備	実施スケジュール	テーマ	実 施 の 手 法			実施主体
			施設	利用・活用	メニュー	
短期	現状施設の展開	スプリングスひよし	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、スポーツ教室、フィットネス	旧日吉町	
		スプリングスパーク	文化交流、健康づくり	アーティスト・工芸家の個展、作品展、スポーツ教室、フィットネス	旧日吉町	
		インフォギャラリー	文化交流	アーティスト・工芸家の個展、作品展	水資源機構	
		ビジターセンター	環境学習機能 インフォメーション機能 休憩機能		水資源機構	
		日吉ダム湖	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り	旧日吉町 旧京北町 旧八木町	
		梅ノ木谷公園 ～世木ダム湖周辺	湖面利用の促進	カヌー・魚釣り	大堰川漁業協同組合 上桂川漁業協同組合 水資源機構	
		宇津峡公園	地元交流	食材販売	旧京北町	
		府民の森ひよし	利用活用メニューの拡大	府民参加の森づくり 森林ボランティアの養成 一般府民の利用 森づくりへの誘導 地元との交流	日吉町森林組合 旧日吉町	
		郷土資料館	移築民家の活用		旧日吉町	
		サイクリングセンター	特化型の利用		旧日吉町	
中期	環境学習をテーマとした展開	原石山跡地	自然観察のフィールド	自然復元によるビオトープ	水資源機構	
		小倉谷休憩所	水辺の観察 湖面利用の基地		水資源機構	
		梅ノ木谷公園～宇津峡公園	水辺の学習フィールド 環境学習の拠点		日吉ダム湖に同じ	
		府民の森ひよし	環境学習の運営拠点 森の学習フィールド	プログラムリーダーの養成 情報発信の場	日吉町森林組合 旧日吉町	
		郷土資料館	ダム周辺地域の歴史・文化の学習 地域の暮らし・生活文化の学習		旧日吉町	
		日吉町「生涯学習センター」	プログラムリーダーの養成 環境セミナーの開催		旧日吉町	
		日吉町「体験の森」	森の環境学習		旧日吉町	
		農地 森林	環境保全型農業 森林ボランティアによる森づくり		日吉町森林組合	
長期	周辺施設・地域への広がり	環境学習による地域交流	農業体験・農村生活プログラム 地域の環境学習	} 地域間交流	日吉町森林組合	
		市民参加型の森づくり	森林ボランティアの活動 森林支援・里山の保全、管理・自然教育、学習		日吉町森林組合	
		施設利用者と地元の交流	イベント・祭り・文化交流		旧日吉町	
		周辺施設とのネットワーク	鍼灸大学・病院+スプリングスひよし →健康づくり 生涯学習センター+スプリングスひよし →文化活動 インフォギャラリー 体験の森+府民の森ひよし →森林ボランティア 環境学習		旧日吉町 旧日吉町 水資源機構 日吉町森林組合	

## 2) 水源地域ビジョンの活動経緯

策定された「日吉ダム水源地域ビジョン」の実施体制として、平成14年度に地域住民や関係機関から成る「日吉ダム水源地域ビジョン連絡会」（以下「連絡会」という。）を組織し、地域住民の主体的な取組みを支援するとともに、連絡会の継続的な開催により、関係者相互の連絡と調整を図りつつ、必要な見直しを行いながら、より良いビジョンを目指して活動を行っている。

平成16年には、9月に新たに「環境分科会」を設置し、「日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)」の検討などを行っている。

平成17年には、4月に環境分科会の「専門部会」として「日吉ダム冷濁水対策検討会」を設立した。本検討会の目的は、日吉ダム下流河川の状況及び既往調査結果により望ましい水質のあり方について議論した上で、冷濁水発生のメカニズムを推定し、対策の抽出・可能性について検討し、対策の方向性を明確にすることである。

水源地域ビジョン策定時の検討の流れからその後の連絡会の活動の経緯を表7.4.2-2に示す。

表 7.4.2-2(1) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
ビジョン協議会		
第1回(協議会) H13.10.15	・条件整理 ・水源地域ビジョン策定にあたっての基本方針の提示	
第2回(幹事会) H13.12.18	・現況施設への取り組みの確認 施設整備・利用活動・管理運営に関して ・水源地域ビジョン策定に向けての検討	
第3回(幹事会) H14.2.8	・水源地域ビジョン(案)の提示 ビジョン策定の基本方針 水源地域ビジョン(案)の提示	
第4回(協議会) H14.3.4	・水源地域ビジョン(最終案)の提示 水源地域ビジョン(案)のまとめ	日吉ダム水源地域ビジョンとその具体化に向けて連絡会設立が承認される
ビジョン記者発表		
H14.4.10		
ビジョン連絡会		
第1回 H14.5.22	・連絡会会則(案)の提案 ・メンバー追加について	
第2回 H14.8.8	・連絡会会則(案)の提案 ・第3回世界水フォーラムにおいて 同上・プレイベント「水フェスティバル in 日吉(10月20日開催)」について	
第3回 H14.11.14	・桂川における上下流交流事業の実施状況について ・第3回世界水フォーラムの展示について ・水源地域ビジョンの実施に向けて	京都府
第4回 H14.12.12	・第3回世界水フォーラムの展示について	
第5回 H15.1.29	・第3回世界水フォーラムの展示について ・ビジョン連絡会の今後の活動について	京都府
第6回 H15.3.25	・第3回世界水フォーラムの展示について(報告) ・ビジョン連絡会検討部会への依頼について	京都府
第7回 H15.5.26	・人事異動に伴うメンバーの変更について ・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第8回 H15.7.22	・湖面利用分科会会則(案)の提案 ・湖面利用分科会のメンバーについて	
第9回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	正にすることの承認を得た (第5回湖面利用分科会後開催)
第10回 H16.7.7	・環境分科会会則(案)について ・環境分科会メンバー(案)について ・湖面利用計画の進入路の確認及び清掃	正にすることの承認を得た 正にすることの承認を得た 確認及び清掃を行った
第11回 H16.9.13	・ビジョン連絡会・湖面利用の進入路確認意見 ・連絡会メンバーの変更について ・環境分科会メンバーの変更について	
第12回 H17.3.2	・日吉ダム環境管理・学習計画(案)について ・日吉ダム水質対策についての専門部会設置とメンバーについて ・その後の湖面利用状況及び桂川流域ネットワーク活動報告	
第13回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第1回日吉ダム冷濁水対策検討会：H17.4.18)の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第14回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
第15回 H20.6.11	・日吉ダム水源地域ビジョン連絡会の経緯について ・ビジョンの今後の進め方(案)について ・平成19年度実施状況・平成20年度計画について ・会則変更について ・その他	
第16回 H21.6.18	・平成20年度実施状況・平成21年度実施計画について ・平成20年度統一清掃実施状況報告 ・現状課題と今後の対応について ・H21日吉ダムフラッシュ放流試験について【速報】 ・日吉ダム防災資料館(ビジターセンター)一時避難所運営計画について ・平成21年度「森と湖に親しむ循環」現地行事支援事業について ・河川敷における利用のあり方について	
第17回 H22.6.25	・平成21年度実施状況・平成22年度実施計画について ・平成21年度統一清掃実施状況報告 ・平成21年度ダム湖利用実態調査アンケート結果について ・国土交通省土地・水資源局水資源部「水の里だより」について ・日吉ダム防災資料館(ビジターセンター)の有効利用について	

表 7.4.2-2(2) 水源地域ビジョン連絡会等の経緯

開催年月日	討 議 内 容 等	備 考
<b>湖面利用分科会</b>		
第 1 回 H15.11.12	・ビジョン連絡会の経緯 ・湖面利用について	
第 2 回 H16.1.29	・一般利用者の湖面利用ルールについて ・日吉ダム湖面利用計画(案)について ・湖面利用分科会のメンバーについてスケジュール ・今後のスケジュールについて ・環境にやさしい湖面利用と地域づくりを目指して	京都大学 木山先生
第 3 回 H16.2.23	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第 4 回 H16.3.24	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	
第 5 回 H16.4.14	・日吉ダム湖面利用計画(案)について	連絡会へ上げる了解を得た
<b>環境分科会</b>		
第 1 回 H16.9.13	・日吉ダム環境管理・学習基本計画(案)について	
第 2 回 H17.4.18	・日吉ダム冷濁水対策検討会(環境分科会の専門部会として)の設立について	同検討会は平成 18 年 2 月までに 4 回実施
第 3 回 H17.5.30	・環境部会・専門部会実施内容 (第 1 回日吉ダム冷濁水対策検討会 : H17.4.18) の報告 ・原石山跡地の植樹について ・天若湖アートプロジェクトの今後の予定について	
第 4 回 H19.3.14	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・ダム等管理フォローアップの報告 ・その他	
<b>冷濁水対策検討会</b> (環境分科会専門委員会)		
第 1 回 H16.9.13	・研究会の発足にあたって(設立趣意、規約について) ・日吉ダムの諸元と冷濁水の実態について ・今後の検討内容とスケジュールについて	規約承認
第 2 回 H17.8.8	・冷水放流及び長期濁水放流発生の上流の状況 ・望ましい水温及びにごりのレベルについて(その 1) 設立について	
第 3 回 H17.11.28	・望ましい水温及び濁りのレベルについて(その 2) ・水温及び濁水調査結果とその考察について ・水温及び濁水放流対策(案)について	
第 4 回 H18.2.1	・冷濁水放流対策案の抽出 ・平成 18 年度検討内容(案) ・平成 18 年度現地調査計画(案)	
第 5 回 H18.9.6	・平成 17 年度日吉ダム冷濁水対策検討会の概要 ・出水時の冷水放流問題と対策について ・貯水池水位低下時の冷水放流問題と対策について ・循環期の長期濁水放流問題と対策について	
第 6 回 H18.12.13	・出水時の冷水放流対策マニュアルの方針(案)について ・貯水池水位低下時の冷水放流マニュアルの方針(案)について ・循環期の長期濁水放流対策マニュアルの方針(案)について ・第 77 回検討会の議題について ・連絡事項ほか	
第 7 回 H19.2.28	・日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)について ・モニタリング計画(案)について ・平成 19 年度以降の取り組みについて ・連絡事項ほか	対策マニュアル案が承認された。
第 8 回 H20.3.12	・平成 19 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」の改定について ・連絡事項ほか	
第 9 回 H21.3.9	・平成 20 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・貯水池水温と放流水温との関係(H20 調査報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	
第 10 回 H22.3.4	・平成 21 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・深層曝気装置の改良について(試験報告) ・今後の検討予定について ・連絡事項ほか	
第 11 回 H23.3.1	・平成 22 年度の「日吉ダム冷濁水対策マニュアル(案)」運用報告 ・今後の予定について ・連絡事項ほか	

## 7.5 ダム周辺の状況

### 7.5.1 ダム周辺整備事業の状況

日吉ダムは「地域に開かれたダム」として、ダム周辺は旧日吉町, 旧京北町, 旧八木町の3町それぞれの立地特性を活かした施設がほぼ整備された状況にある。

また、3町の施設以外に京都府（平成18年4月から第3セクターで運営）の「府民の森ひよし」、水資源機構の「インフォギャラリー」、 「日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）」も整備されている。「インフォギャラリー」は日本で初めてダム堤体内に設置されたもので、話題を呼んだ施設である。

これらの施設は一体となってお互いに補完、棲み分けをしながら利用に対応している。日吉ダムの周辺整備状況を図7.5.1-1～7.5.1-4に示す。



図 7.5.1-1 日吉ダム周辺整備施設 (1)

地域の自然と身近にふれあ  
ヘルシーで文化的  
日吉ダムも応

い、思いっきり楽しめる！  
な新しい里づくり  
援しています

楽しさの  
入り口！

スプリングスパークや日吉ダムがある、いわば日吉ダムの表玄関です。この地域を訪れた人々のスポーツやレクリエーションの出发点になります。

水と緑の  
絶景！

ダム湖と、それをとりまくふるさとの緑の眺めを楽しめ、水と緑のコントラストが最高。夏には世木ダムがつくる滝の風景も見どころです。

自然との  
ふれあい！

森の散策や観察ができる府民の森や貯水池周辺に設けた休憩所などがあり、釣りやサイクリングが楽しめます。

アウトドアライフ  
満喫！

キャンプなどさまざまなアウトドアライフが楽しめる宇津峡公園は、本格的な自然が体験できます。



日吉ダム建設のために  
岩石を送り出した採取場に  
ふたたび自然がよみがえる  
岩石を採取した原石山跡地や小倉谷  
では、もとの自然に戻す整備を行い、  
動物や植物が暮らせるような環境を  
育てています。

図 7.5.1-2 日吉ダム周辺整備施設 (2)

表 7.5.1-1 各ゾーンの位置付け

ゾーン名	位置付けと内容
里のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①日吉ダムのメインエントランス                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・旧日吉町のイメージを伝えるゾーン</li> <li>・「旧日吉町のよさ」を印象づけ、認識する場。</li> </ul> </li> <li>②都市との交流の場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市との文化交流の場として、都市と文化の共有化を進め、旧日吉町の定住化をはかるとともに、新・旧住民との交流の場とする。</li> </ul> </li> <li>③旧日吉町のスポーツ拠点                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に不足しているスポーツ施設を整備し町の「スポーツ」機能の拠点とする。</li> </ul> </li> </ul>
水のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①展望を楽しむ場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・道路、展望施設、橋よりダム湖面や、水に映る山並み等の風景を楽しみながら、周遊、散策ができるものとする。</li> </ul> </li> <li>②水と親しむ場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・日吉ダム湖、世木ダム湖の特性を利用し、湖面スポーツ、水遊び、魚釣り、湿生植物観察、散策等に積極的に活用する。</li> </ul> </li> </ul>
森のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①森を知る場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の知識を提供し、森（自然）に対する認識を深める場とする。</li> </ul> </li> <li>②森と親しむ場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、工芸、セミナー等の様々な文化活動をアメニティの高い環境（森）の中で行い、心身のリフレッシュを図る場とする。</li> </ul> </li> </ul>
山のゾーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>①本格的に自然（山・森）と関わる場                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・最も自然度の高いゾーンとして本格的に自然と動的に関わりながら、自然そのものを活かし楽しむ場とする。</li> </ul> </li> </ul>



# ダム広報施設

## ■インフォギャラリー

日吉ダムでは、日本で初めて、ダム堤体内部を見学できるようになりました。  
このインフォギャラリーでは3つのテーマゾーンと実際のダムゲートが見学できるようになっています。



図 7.5.1-3 日吉ダムの広報施設 (1)

## ■ビジターセンター

ビジターセンターでは、水役割、水の働き、水の恐さなど、水について、また、日吉ダムについて、パネルや映像、模型で説明しています。そのなかには、自分で探さなければ、見つからないものもあり楽しくダムの勉強ができるようになっています。



日吉ダム・ビジターセンター



日吉ダムゾーン



日吉ダムゾーン



水の脅威ゾーン



水の脅威ゾーン

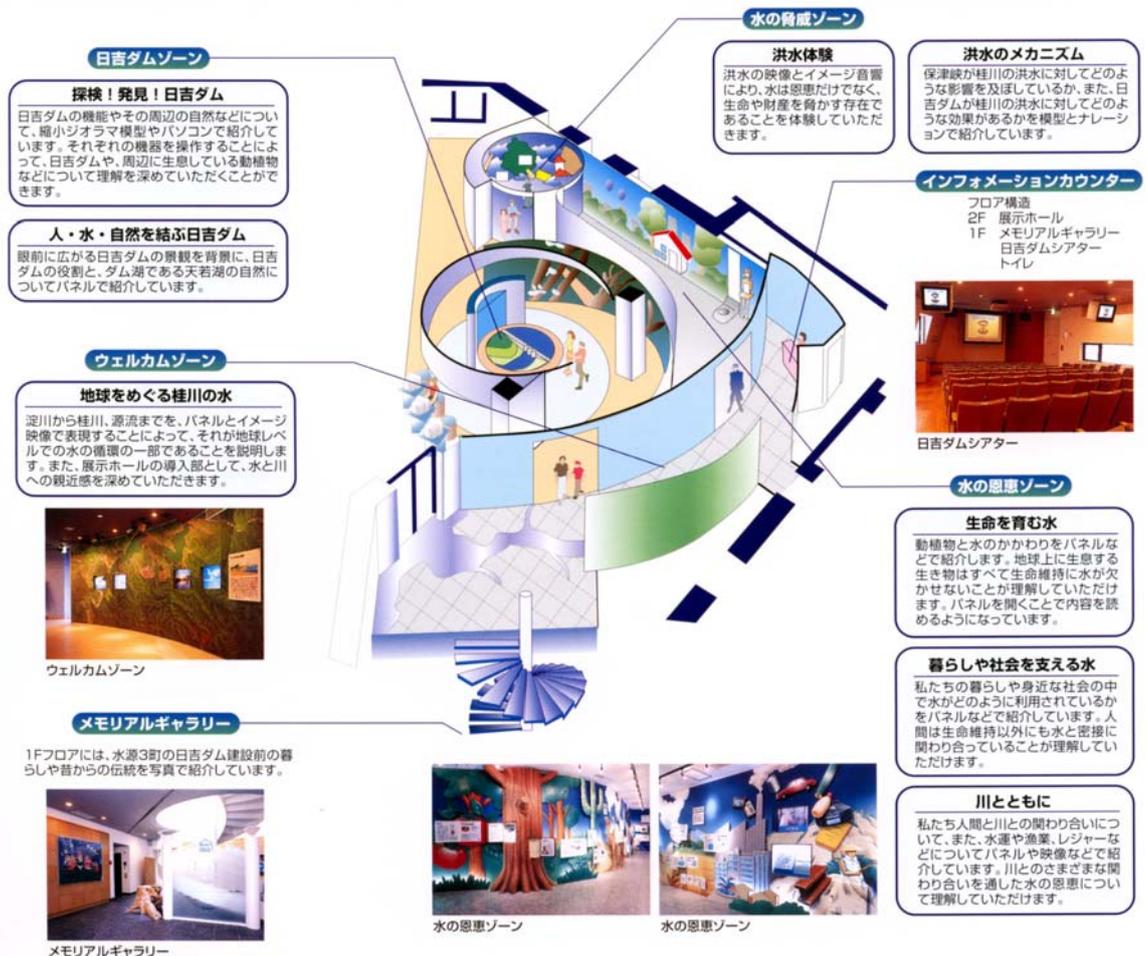
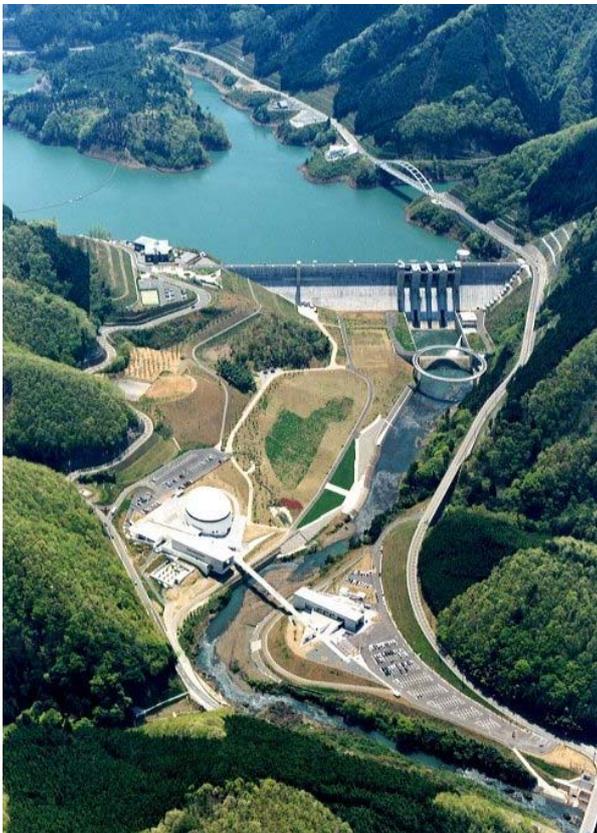


図 7.5.1-4 日吉ダムの広報施設 (2)

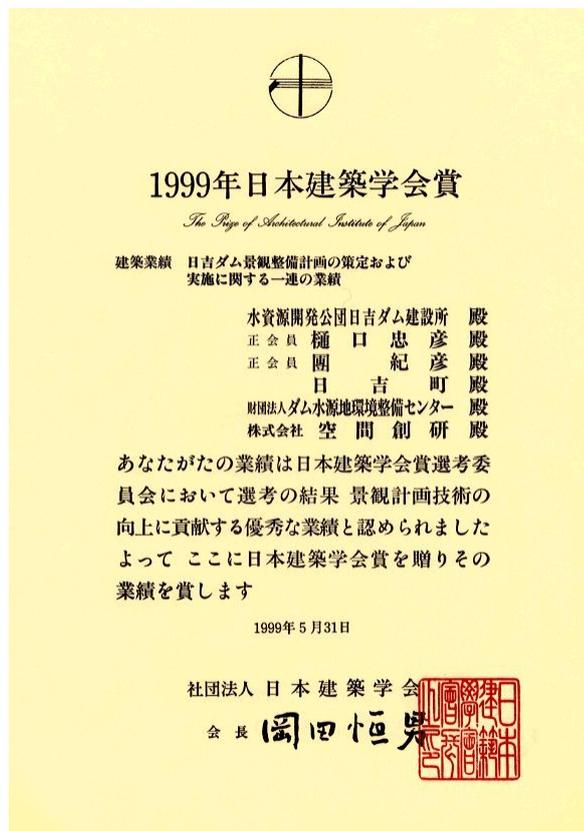
## 【1999 年日本建築学会賞(業績)受賞】

日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の指定を受けたことを機に、地形や自然・社会環境を十分に活かしたダム周辺の環境整備計画を策定し実施してきた。特に、新潟大学樋口忠彦教授（現：京都大学大学院教授）の指導のもとに、水資源機構、旧日吉町、(財)ダム水源地環境整備センター、建築家團紀彦氏、(株)空間創研が協力した土木構造物である「日吉ダム」と建築構造物である「スプリングスひよし」を「ダム下流公園」を介して一体的に整備し、優れた景観を創出した業績が評価され、「1999 年日本建築学会賞(業績)」を受賞した。

日本建築学会賞は、建築に関する学術・技術・芸能の進歩発展を図るとともに、我が国の建築文化を高め、公共の福祉に寄与することを目的にもうけられたもので、昭和24年以来毎年極めて顕著な業績のあったものが表彰されている。



日吉ダムとスプリングスひよし



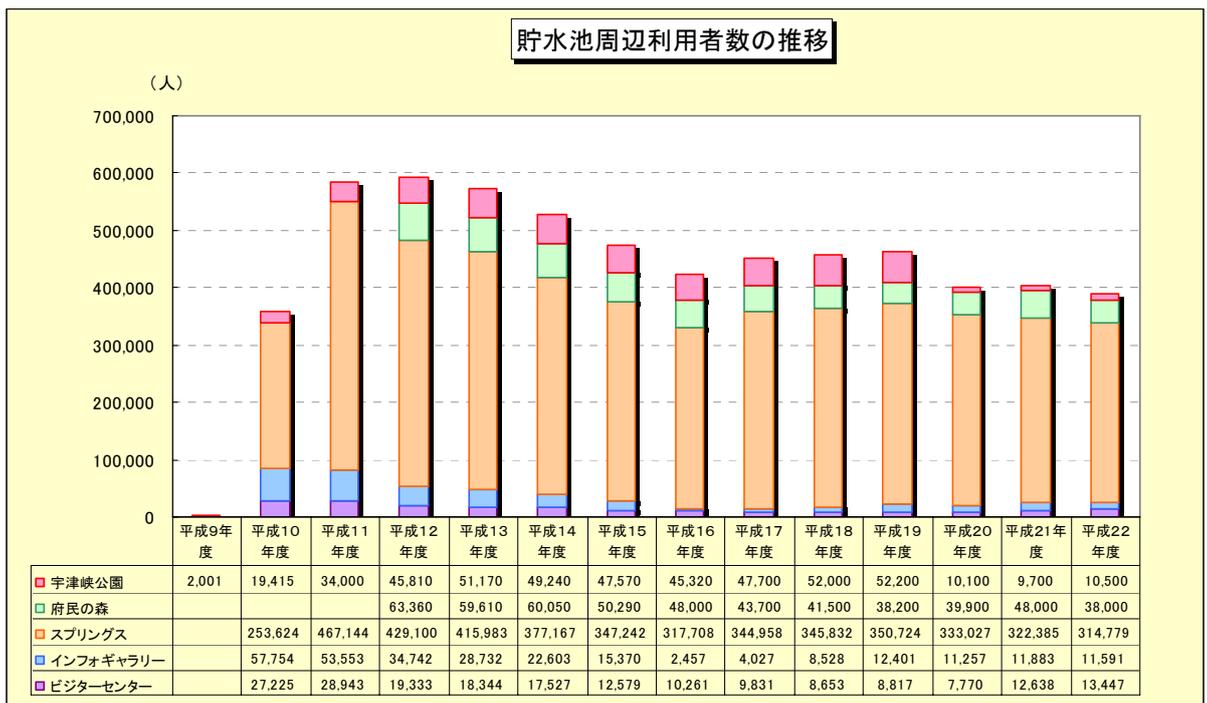
1999年日本建築学会賞の表彰状

## 7.5.2 ダム周辺施設の利用状況

日吉ダムでは、地域住民等のダム施設や管理に関する理解を得るために、随時、ダムの広報施設等を一般に開放している。

スプリングスひよしの利用者数は他の施設に比べて圧倒的に多いが、平成11年度をピークに徐々に減少傾向となり、平成17年度から横這い傾向ではあったが、最近はまだ減少傾向となっており、施設全体の利用者数の傾向も減少傾向となっている。貯水池周辺施設の利用者の推移を図7.5.2-1に示す。

平成22年度は、平成10年4月から一般開放している堤体内「インフォギャラリー」及びダム直上流の「日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）」には、それぞれ11,591人、13,447人が訪れ、平成10年10月にダム直下流にオープンした「スプリングスひよし」には、約31万5千人が訪れた。平成22年度は、「日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）」では前年に比べて増加、「スプリングスひよし」、「インフォギャラリー」では前年に比べて減少した。なお、宇津峡公園の平成20年以降の利用者数の激減は、利用者数のカウント方法の変更によるものである。平成10～22年度までの年度ごとの月別施設見学者数の推移を図7.5.2-2に示す。



\*日吉ダム防災資料館（ビジターセンター）・インフォギャラリー平成10年4月開園

\*スプリングスひよし平成10年10月1日オープン

\*府民の森平成12年4月29日開園

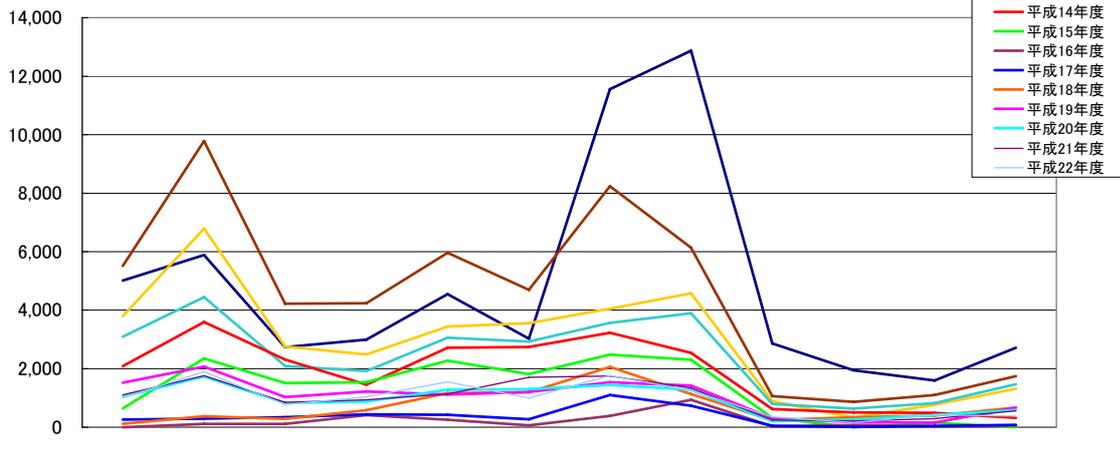
\*宇津峡公園平成9年6月末開園

\*宇津峡公園の利用者数のカウント方法は、平成20年より変更

（平成19年度までは目視確認による施設利用者数であり、平成20年度以降は入場チケット購入者数である。）

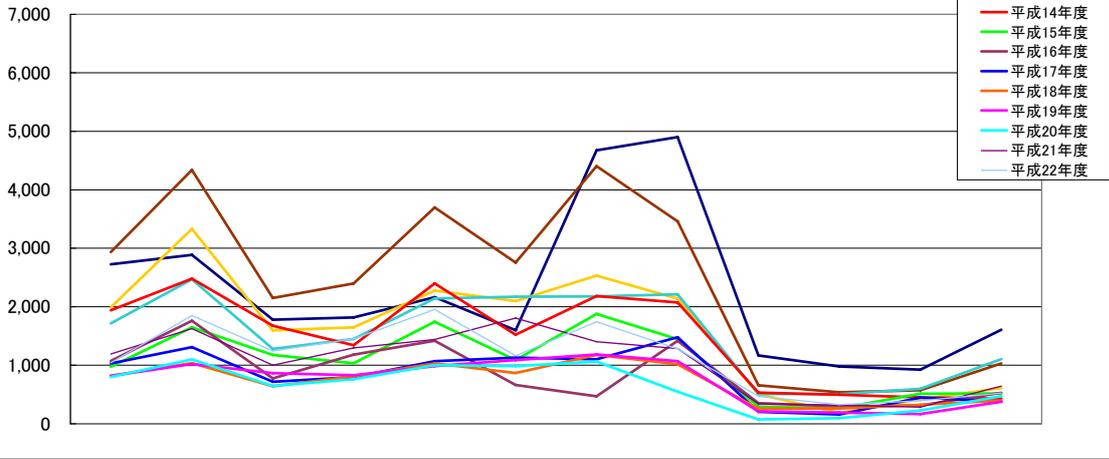
図 7.5.2-1 貯水池周辺施設の利用者数の推移

### インフォギャラリー見学者数



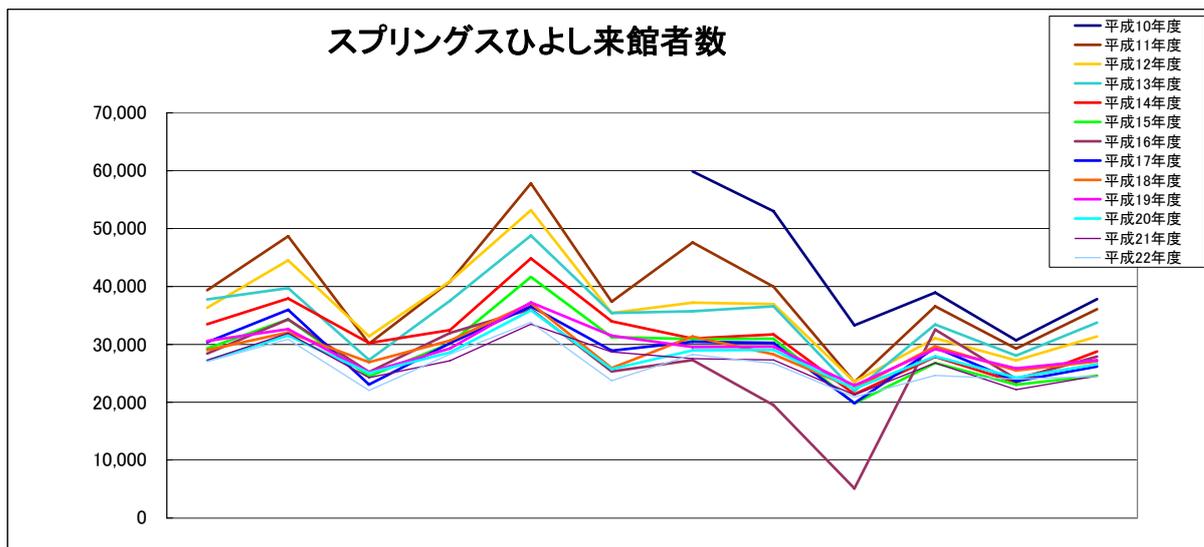
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度	5,013	5,890	2,736	2,994	4,547	3,024	11,558	12,871	2,861	1,945	1,601	2,714	57,754
平成11年度	5,516	9,782	4,218	4,235	5,965	4,699	8,240	6,136	1,063	862	1,097	1,740	53,553
平成12年度	3,793	6,790	2,760	2,484	3,441	3,551	4,055	4,576	888	329	764	1,311	34,742
平成13年度	3,096	4,447	2,095	1,922	3,058	2,926	3,563	3,894	795	641	822	1,473	28,732
平成14年度	2,087	3,591	2,312	1,457	2,714	2,743	3,224	2,540	622	505	486	322	22,603
平成15年度	642	2,352	1,506	1,537	2,269	1,818	2,478	2,305	314	0	149	0	15,370
平成16年度	0	107	112	416	253	65	385	935	27	74	27	56	2,457
平成17年度	260	294	338	437	423	273	1,099	735	44	3	43	78	4,027
平成18年度	116	373	279	580	1,169	1,189	2,061	1,131	233	337	395	665	8,528
平成19年度	1,515	2,070	1,031	1,217	1,114	1,199	1,535	1,418	305	175	155	667	12,401
平成20年度	1,046	1,729	829	875	1,280	1,298	1,445	1,284	205	266	413	587	11,257
平成21年度	1,103	1,759	852	938	1,133	1,709	1,749	1,337	240	215	293	555	11,883
平成22年度	1,005	1,895	770	1,042	1,549	994	1,764	1,255	350	158	427	382	11,591

### 日吉ダム防災資料館(ビジターセンター)見学者数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度	2,725	2,886	1,779	1,816	2,165	1,598	4,675	4,901	1,167	980	925	1,608	27,225
平成11年度	2,935	4,338	2,150	2,398	3,697	2,758	4,405	3,461	658	537	573	1,033	28,943
平成12年度	1,989	3,332	1,595	1,646	2,277	2,100	2,534	2,139	505	186	418	612	19,333
平成13年度	1,715	2,469	1,279	1,448	2,142	2,173	2,180	2,213	513	505	599	1,108	18,344
平成14年度	1,941	2,481	1,675	1,343	2,398	1,523	2,183	2,074	531	497	451	430	17,527
平成15年度	974	1,646	1,176	1,035	1,745	1,090	1,876	1,447	293	285	515	517	12,579
平成16年度	1,076	1,760	776	1,181	1,419	665	468	1,421	353	299	313	530	10,261
平成17年度	1,032	1,311	720	795	1,070	1,131	1,104	1,481	203	158	448	378	9,831
平成18年度	821	1,038	641	812	1,031	867	1,175	1,019	260	263	325	401	8,653
平成19年度	820	1,021	865	831	987	1,089	1,184	1,070	214	192	168	376	8,817
平成20年度	798	1,102	646	761	1,000	985	1,064	548	74	94	226	472	7,770
平成21年度	1,192	1,626	1,001	1,296	1,440	1,804	1,403	1,285	343	319	284	645	12,638
平成22年度	1,044	1,851	1,245	1,451	1,955	1,162	1,746	1,280	468	328	394	523	13,447

図 7.5.2-2(1) 施設見学者数の推移



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
平成10年度							59,862	53,011	33,289	38,950	30,687	37,825	253,624
平成11年度	39,372	48,673	30,099	40,851	57,803	37,392	47,594	39,978	23,468	36,573	29,262	36,079	467,144
平成12年度	36,347	44,510	31,378	40,913	53,190	35,414	37,215	36,963	23,533	31,062	27,223	31,352	429,100
平成13年度	37,757	39,708	27,306	37,541	48,781	35,393	35,739	36,571	21,948	33,422	28,057	33,760	415,983
平成14年度	33,488	37,947	30,225	32,474	44,852	33,982	31,016	31,705	21,379	27,872	23,440	28,787	377,167
平成15年度	29,289	34,300	24,472	30,098	41,672	31,255	30,940	30,997	19,805	26,799	23,044	24,571	347,242
平成16年度	28,434	34,316	25,224	31,967	36,079	25,299	27,285	19,491	5,130	32,549	24,044	27,890	317,708
平成17年度	30,379	35,965	23,060	30,205	36,572	28,922	30,470	30,260	19,846	29,461	23,632	26,186	344,958
平成18年度	29,012	32,049	26,910	30,626	37,095	25,908	31,368	28,281	22,386	29,658	25,484	27,055	345,832
平成19年度	30,578	32,631	25,189	29,291	37,227	31,511	29,527	29,592	22,889	29,176	25,823	27,290	350,724
平成20年度	27,199	31,529	25,049	28,595	35,860	25,748	28,966	29,039	22,318	27,931	24,244	26,549	333,027
平成21年度	27,271	31,905	24,238	27,161	33,474	28,687	27,535	27,319	21,272	26,804	22,177	24,542	322,385
平成22年度	27,026	30,894	22,048	28,303	33,809	23,717	28,237	26,716	20,930	24,636	24,008	24,455	314,779

図 7.5.2-2(2) 施設見学者数の推移

### 7.5.3 ダム及び周辺のイベント等の開催状況

平成 22 年度に日吉ダム周辺で開催された主なイベント等は、以下に示すとおり。

○4 月 17 日

京都府営水道乙訓浄水場の施設公開に併せて、日吉ダムの水を利用している地域住民を対象に、「水の大切さや水道水の知識を深めること」を目的として、水源施設である日吉ダムと乙訓浄水場の見学ツアーを開催した。

○4 月 25 日

ダム貯水池の周回道路において、日吉ダムマラソン大会実行委員会主催の「第 13 回日吉ダムマラソン」が開催され、約 3,000 人が参加した。

○7 月 18 日

ダム下流広場及びスプリングスひよしを会場に、日吉町観光協会主催の「ひよし夏まつり」が開催された。日吉ダム管理所は、クレストゲート室の一般開放、水の写真コンテスト優秀作品の展示等を行った。

○8 月 7 日

天若湖アートプロジェクト実行委員会が主催する「天若湖アートプロジェクトあかりがつなぐ記憶」が開催され、メインプログラムとして、ダム湖に水没したかつての集落があった位置の湖面に”あかり”を灯し、集落の夜景を再現して往時を偲ぶ活動が行われた。日吉ダム管理所も実行委員会の一員として、“あかり”設営などの協力・協働を行っている。

なお、天若湖アートプロジェクト実行委員会は、平成 22 年度の「京都水宣言記念・京都水づくり賞」（京都府）を受賞している。

○10 月 24 日

ダム下流広場及びスプリングスひよしを会場に、ひよし水の杜フェスタ実行委員会（南丹市）主催の「ひよし水の杜フェスタ」が開催され、日吉ダム堤体内の施設見学会、パネル展示等を実施した。

○11 月 3 日

京北ふるさとまつり実行委員会主催の「京北ふるさとまつり」に参加し、日吉ダムのパネル展示と、流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理について PR した。

○11 月 12～13 日

総合学習の一環として実施される職場体験の場として、地元日吉町の中学生を受け入れた。

○11 月 21～22 日

向日市まつり実行委員会主催の「向日市まつり」に、南丹市とともに参加し、日吉ダムのパネル展示と、流木をチップ化した堆肥の配布を行い、ダム管理について PR した。

表 7.5.3-1 主な地元との交流及びイベントの開催状況（平成 22 年度の状況）

イベント・活動等	活動内容	参加人数	開催日	主催者	日吉ダムの役割
水の恵み 見学ツアー	（施設見学等） ユーザーである乙訓浄水場の施設公開に併せ、水源施設である日吉ダムについても施設見学を実施し理解を深めてもらうため「水の恵み見学ツアー」を共催。	31人	4月17日	日吉ダム管理所	主催
日吉ダムマラソン	（地域行事への協力） 府民の森ひよしをスタート・ゴール会場としてダム天端及び貯水池周辺道路をコースとしたハーフ、ファミリー、10kmのロードレース「日吉ダムマラソン」が開催され、ダム管理所として役員として参加すると共に当日の気象状況の情報提供（定時報告）、備品の貸し出し等により協力。	2768人	4月25日	日吉ダムマラソン実行委員会	協力
ひよし夏祭り	（施設見学会等） 水に親しむ旬間行事として、ダム下流広場を利用した「ひよし夏祭り」を開催。日吉ダムでは堤体内の見学会などを実施。	約100人	7月18日	日吉町観光協会	共催
天若湖アートプロジェクト	（地域行事への協力） 「天若湖アートプロジェクト」のメインプログラムとして、水没した家屋の真上の湖面に“あかり”を浮かべ、家屋からの灯りを再現し往時を偲ぶ活動。日吉ダム管理所も実行委員の一員として協力。	不明	8月7日	天若湖アートプロジェクト実行委員会	協力
ひよし水の杜フェスタ	（施設見学会等） ダム下流広場を利用した地域行事「ひよし水の杜フェスタ」の一環として、日吉ダム堤体内の見学会及び堆肥配布を実施。	329人	10月24日	ひよし水の杜フェスタ実行委員会	共催
京北ふるさとまつり	（上下流交流） 上流域の京北で行われる「京北ふるさとまつり」に参加し、上流域の方々へ日吉ダムの役割等について啓蒙活動を実施。	約150人	11月3日	京都市右京区京北町	その他
向日市まつり	（上下流交流） 下流域の向日市で行われる「向日市まつり」に参加し、下流域の方々へ日吉ダムの役割等について啓蒙活動を実施。	約300人	11月20日～21日	向日市まつり実行委員会	その他



水の恵み見学ツアー (H22. 4. 17)



日吉ダムマラソン (H22. 4. 25)



ひよし夏祭り (H22. 7. 18)



天若湖アートプロジェクト (H22. 8. 7)

図 7. 5. 3-1 (1) 地元との交流及びイベント風景(1)

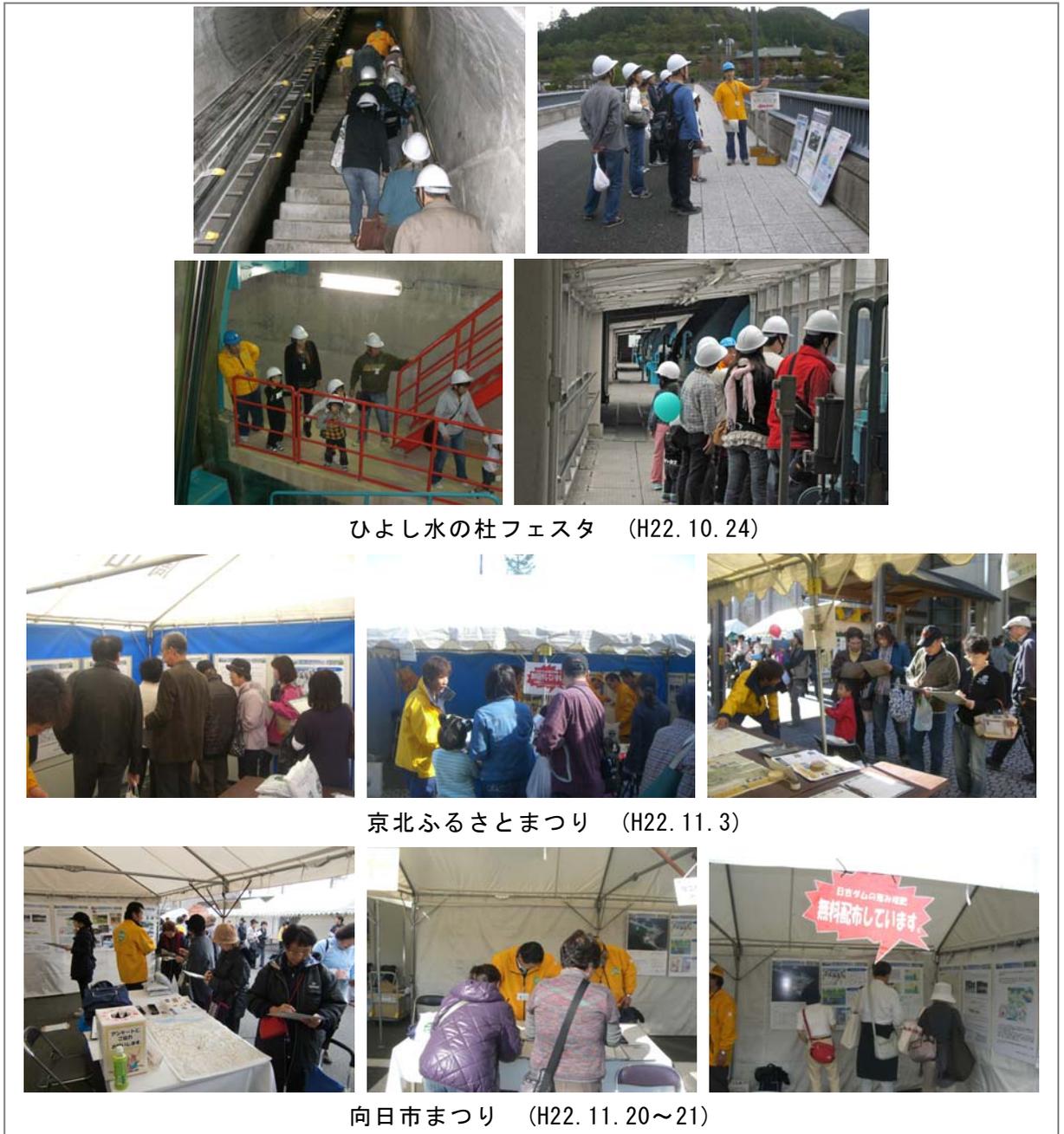


図 7.5.3-1(2) 地元との交流及びイベント風景(2)

## 7.6 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

### 7.6.1 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）結果

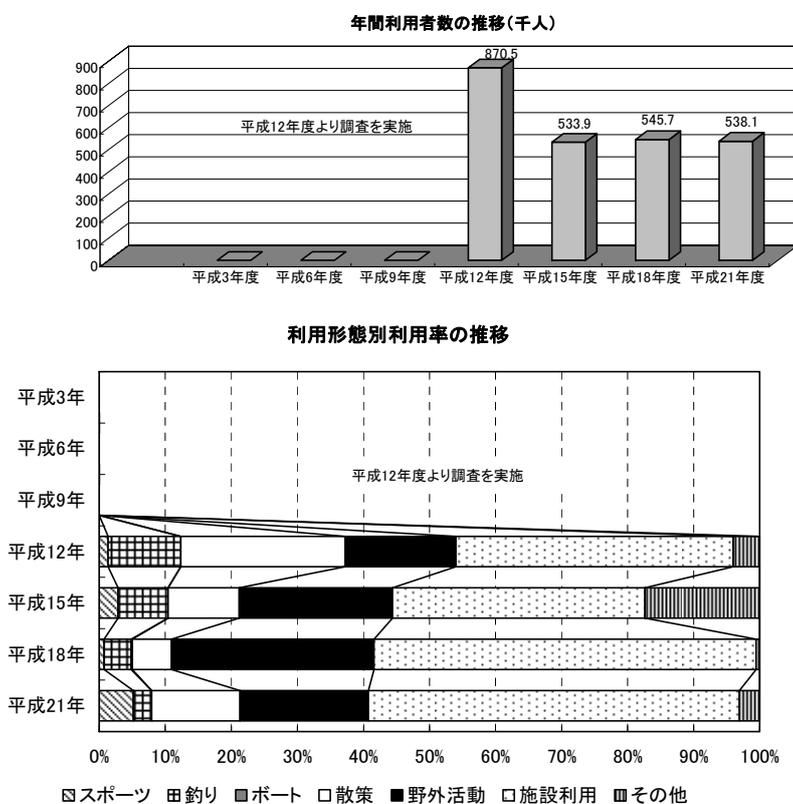
#### (1) 年間利用者数

日吉ダムでは、平成12年度、平成15年度、平成18年度、平成21年度に「河川水辺の国勢調査＜ダム湖利用実態調査＞」を実施している。

調査結果によると、平成12年の年間利用者数の推計値は約87万人（全国第2位\*）、平成15年度は約53万人（全国第4位\*）、平成18年度は約55万人（全国第3位\*）、平成21年度は約54万人（全国第3位\*）となっている。（\*は次頁参照）

利用形態については、「施設利用」が最も多く、「スプリングスひよし」など、周辺施設の充実が伺える。また、野外活動や散策なども多く、下流の公園一帯の利用者も多いと考えられる。

年間利用者数の状況を図7.6.1-1に示す。



**ダム湖及び周辺の利用状況**

年度	総数	利用形態区分							利用場所別		
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	湖面	湖畔	ダム
平成3年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成6年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成9年度	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
平成12年度	870.5	11.6 (1.3%)	96.0 (11.0%)	0.0 (0.0%)	216.7 (24.9%)	145.9 (16.8%)	365.5 (42.0%)	34.8 (4.0%)	102.2 (11.7%)	719.3 (82.6%)	49.0 (5.6%)
平成15年度	533.9	15.2 (2.8%)	40.4 (7.6%)	<0.1 (0.0%)	57.5 (10.8%)	124.0 (23.2%)	204.1 (38.2%)	92.7 (17.4%)	40.3 (7.6%)	475.6 (89.1%)	17.9 (3.4%)
平成18年度	545.7	4.0 (0.7%)	22.4 (4.1%)	0.9 (0.2%)	32.3 (5.9%)	167.3 (30.7%)	315.8 (57.9%)	2.9 (0.5%)	25.1 (4.6%)	513.3 (94.1%)	7.3 (1.3%)
平成21年度	538.1	27.8 (5.2%)	14.8 (2.8%)	0.1 (0.0%)	72.0 (13.4%)	104.5 (19.4%)	302.5 (56.2%)	16.5 (3.1%)	15.2 (2.8%)	500.9 (93.1%)	22.0 (4.1%)

(単位:千人)

【出典：平成21年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編、平成23年3月〕国土交通省河川局河川環境課】

図7.6.1-1 日吉ダムの年間利用者数の状況

※参 考

河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）

国土交通省及び水資源機構の管理中のダムを対象に、平成3年から3年に1回の頻度で、ダムの利用者や利用実態について調査を行っている。

なお、日吉ダムは平成10年に完成しているために、河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）は平成12年から実施している。

年間利用者数の多いダムを表7.6.1-1に示す。

表 7.6.1-1 年間利用者数の多いダム

年 度		1位	2位	3位	4位	5位	対象ダム数
平成12年度	ダム名 所在地 利用者数	御所ダム 岩手県 約89万人	日吉ダム 京都府 約87万人	金山ダム 北海道 約74万人	草木ダム 群馬県 約59万人	釜房ダム 宮城県 約46万人	91ダム
平成15年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約135万人	御所ダム 岩手県 約101万人	金山ダム 北海道 約73万人	日吉ダム 京都府 約53万人	三春ダム 福島県 約43万人	98ダム
平成18年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約157万人	御所ダム 岩手県 約96万人	日吉ダム 京都府 約55万人	三春ダム 福島県 約54万人	草木ダム 群馬県 約52万人	102ダム
平成21年度	ダム名 所在地 利用者数	宮ヶ瀬ダム 神奈川県 約133万人	御所ダム 岩手県 約100万人	日吉ダム 京都府 約54万人	三春ダム 福島県 約46万人	天ヶ瀬ダム 京都府 約43万人	106ダム

注)平成21年度対象ダムには、平成22年度に調査を実施した沖縄地方7ダムを含む

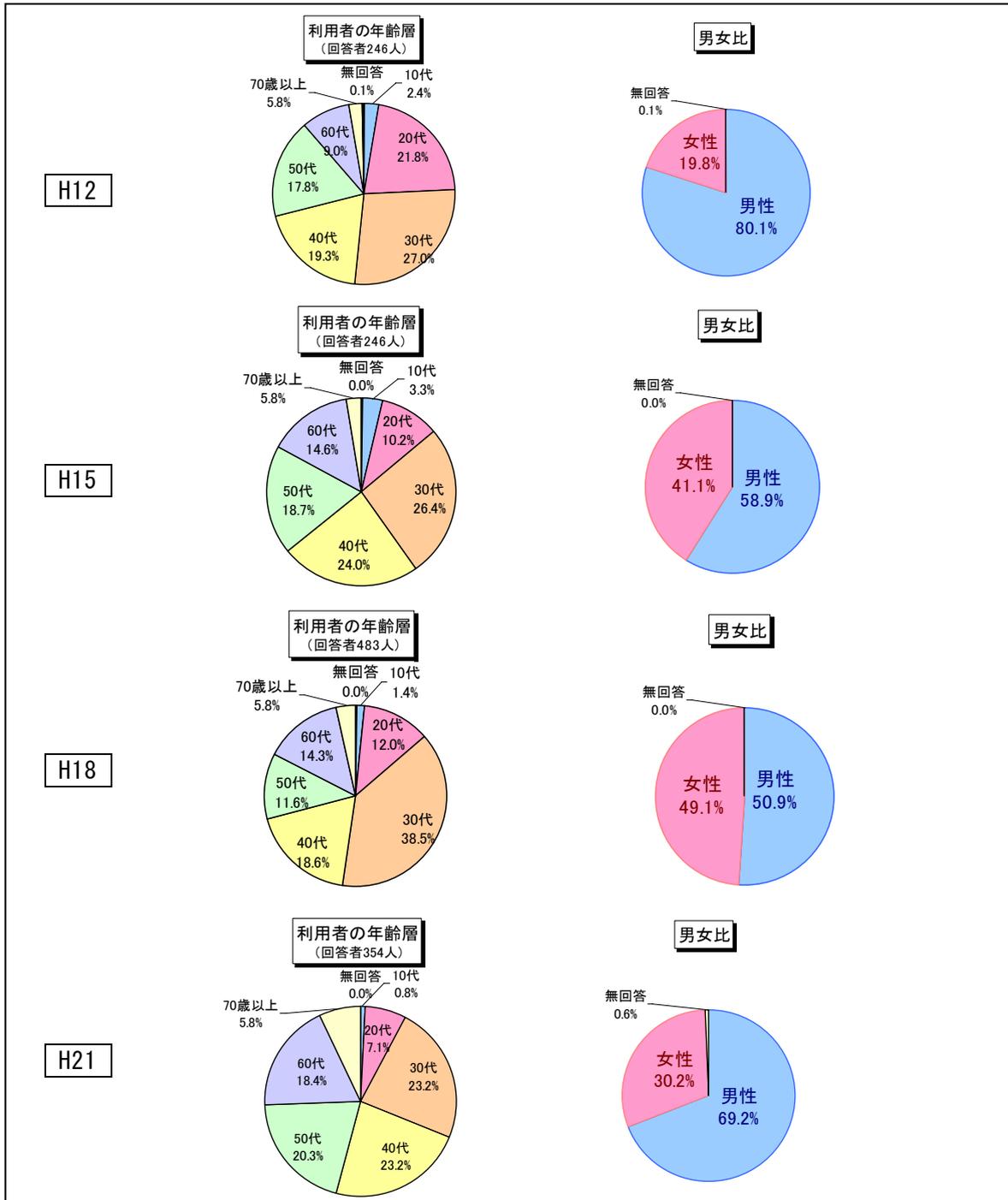
【出典：平成12年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）  
平成15年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）  
平成18年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）  
平成21年度 河川水辺の国勢調査（ダム湖利用実態調査）】

また、利用実態調査時に実施したアンケート調査結果により、日吉ダムの利用の特徴を以降のとおり整理した。

## (2) 利用者特性

利用者層は、30歳代が最も多く、次いで平成12年は20歳代が多かったのに対し、平成15年以降は40歳代であった。20歳代から、60歳代まで、多様な年齢層が利用していると考えられる。また、男性の比率が高いのは、男性のアンケート回答者が多かったためと考えられる。

利用者の属性を図7.6.1-2に示す。

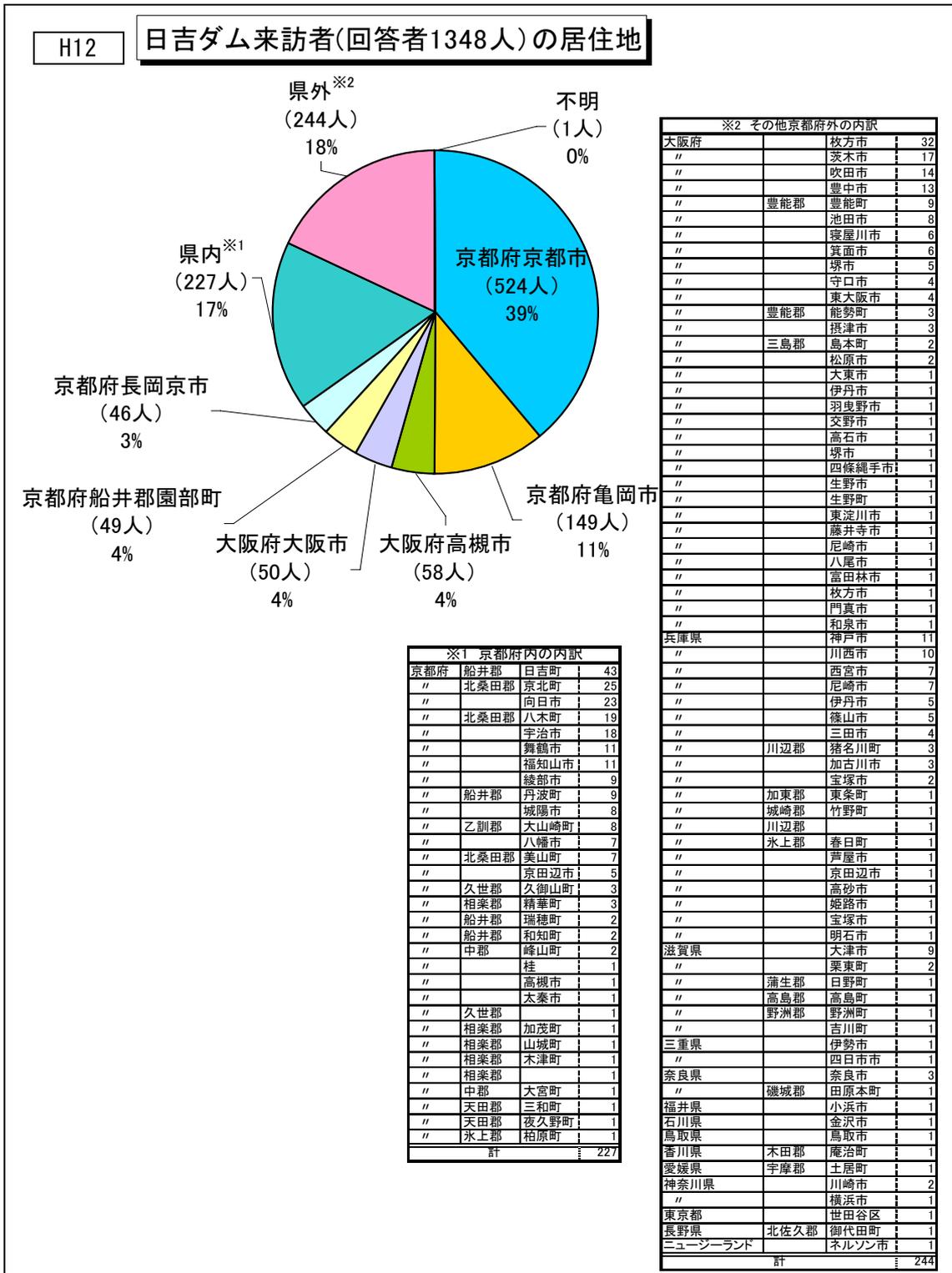


【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成12、15、18、21年度」】

図7.6.1-2 利用者の属性

平成 21 年のアンケート結果では、利用者の居住地は、京都府京都市が最も多く、次いで京都府南丹市、亀岡市、大阪府大阪市、高槻市が多かった。また、その他京都府内及び京都府外と回答された来訪者が 30%を占めており、多方面からの来訪があることが伺える。

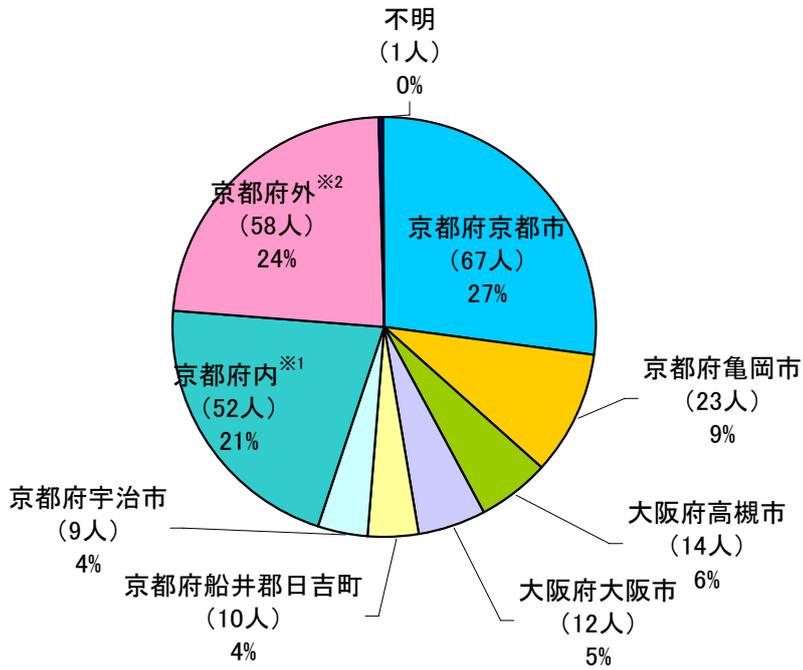
なお、図中の市町名は調査時のものである。来訪者の居住地を図 7. 6. 1-3 に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 12 年度」】

図 7. 6. 1-3(1) 来訪者の居住地 (H12)

日吉ダム来訪者(回答者246人)の居住地



※1 京都府内の内訳

京都府	船井郡	園部町	9
"	北桑田郡	京北町	6
"	船井郡	丹波町	6
"		長岡京市	5
"		向日市	4
"	船井郡	八木町	4
"		城陽市	3
"		福知山市	3
"	乙訓郡	大山崎町	2
"		八幡市	2
"		綾部市	1
"		右京区	1
"	与謝郡	加悦町	1
"	与謝郡	岩滝町	1
"		京田辺市	1
"	相楽郡	精華町	1
"	北桑田郡	美山町	1
"		舞鶴市	1
計			52

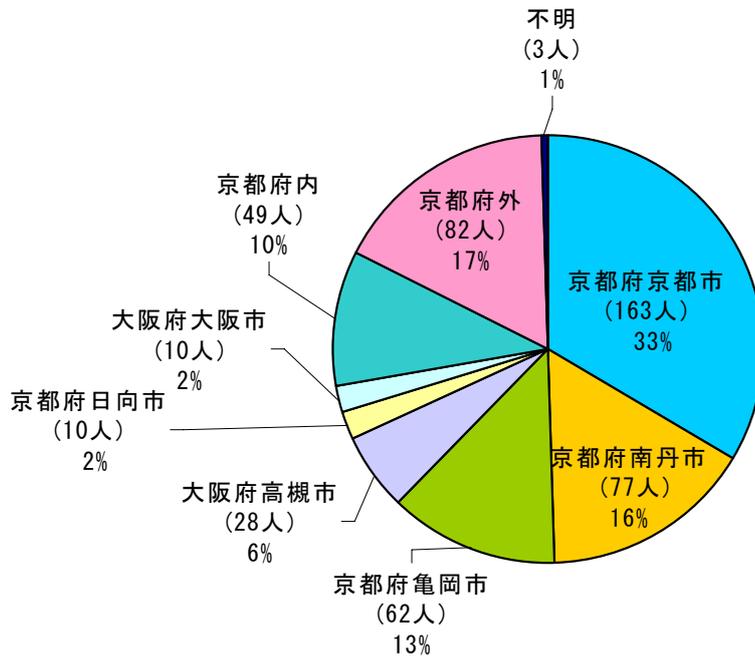
※2 その他京都府外の内訳

大阪府		茨木市	6
"		東大阪市	4
"		枚方市	4
"		堺市	3
"		豊中市	3
"		羽曳野市	2
"		寝屋川市	2
"		吹田市	2
"		摂津市	1
"		泉佐野市	1
"		大阪狭山市	1
"		池田市	1
"	三島郡	島本町	1
"		八尾市	1
"	豊能郡	豊能町	1
"	豊能郡		1
"			1
兵庫県		神戸市	7
"		尼崎市	4
"		西宮市	2
"		川西市	2
滋賀県		草津市	1
"		大津市	1
奈良県		奈良市	2
"	北葛城郡	王寺町	1
奈良県		天理市	1
神奈川県		横浜市	2
計			58

【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成15年度」】

図 7.6.1-3(2) 来訪者の居住地 (H15)

日吉ダム来訪者(回答者483人)の居住地



京都府	市区町村	人数
	宇治市	9
"	船井郡 京丹波町	7
"	長岡京市	6
"	福知山市	4
"	舞鶴市	3
"	城陽市	3
"	洛西	1
"	長岡	1
"	久御山町	1
"	綾部市	1
"	無回答	13
計		49

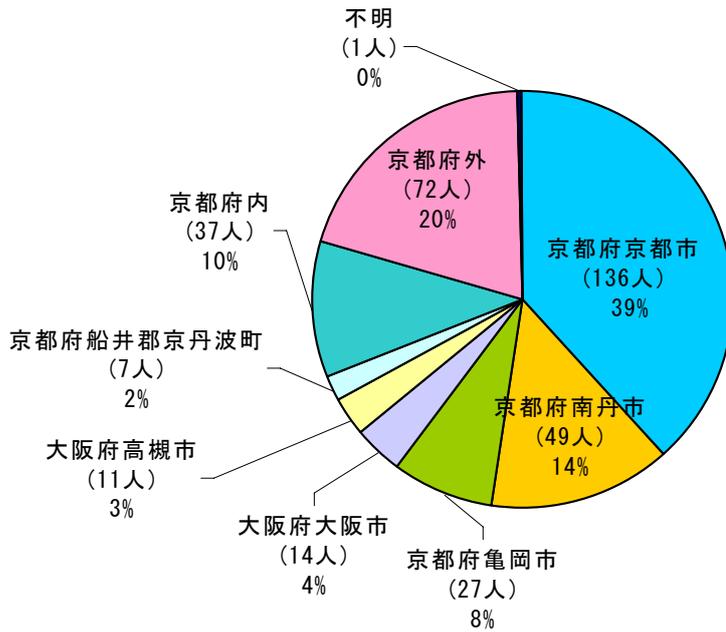
都府県	市区町村	人数
大阪府	枚方市	9
"	茨木市	5
"	吹田市	4
"	豊中市	4
"	岸和田市	2
"	寝屋川市	2
"	東大阪市	2
"	豊能郡 豊能町	2
"	箕面市	2
"	堺市	1
"	守口市	1
"	門真市	1
"	和泉市	1
"	無回答	13
兵庫県	川西市	6
"	西宮市	4
"	伊丹市	3
"	三田市	2
"	神戸市	2
"	神崎郡 市川町	1
"	篠山市	1
"	篠山町	1
"	尼崎市	1
"	宝塚市	1
"	無回答	1
滋賀県	無回答	3
奈良県	奈良市	1
"	無回答	1
三重県	名張市	1
"	無回答	1
広島県	無回答	1
佐賀県	佐賀市	1
東京都	無回答	1
計		82

注) 明らかな書き間違いと思われるものは、現在の地名で集計した。

【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成18年度」】

図 7.6.1-3(3) 来訪者の居住地 (H18)

日吉ダム来訪者(回答者354人)の居住地



市町村	人数
京都府 向日市	5
京都府 宇治市	5
京都府 長岡京市	3
京都府 綾部市	2
京都府 京田辺市	2
京都府 京丹後市	2
京都府 福知山市	1
京都府 八幡市	1
京都府 城陽市	1
京都府 三浜町	1
京都府 与謝郡 岩滝町	1
無回答	13
計	37

都道府県	市町村	人数
大阪府	枚方市	6
大阪府	茨木市	5
大阪府	堺市	4
大阪府	吹田市	4
大阪府	寝屋川市	3
大阪府	三島郡 島本町	3
大阪府	和泉市	2
大阪府	茨木市	2
大阪府	豊中市	2
大阪府	豊能郡 豊能町	2
大阪府	箕面市	1
大阪府	美濃市	1
大阪府	八尾市	1
大阪府	池田市	1
大阪府	泉大津市	1
大阪府	松原市	1
大阪府	四条畷市	1
大阪府	無回答	1
兵庫県	川西市	7
兵庫県	神戸市	4
兵庫県	加古川市	2
兵庫県	尼崎市	1
兵庫県	伊丹市	1
兵庫県	篠山市	1
兵庫県	姫路市	1
滋賀県	大津市	2
滋賀県	近江八幡市	1
滋賀県	草津市	1
福井県	敦賀市	1
福井県	小浜市	1
福井県	三方上中郡 若狭町	1
福井県	大飯郡 おおい町	1
長野県	諏訪市	1
長野県	諏訪市	1
奈良県	奈良市	1
三重県	津市	1
愛知県	名古屋市	1
青森県	八戸市	1
計		72

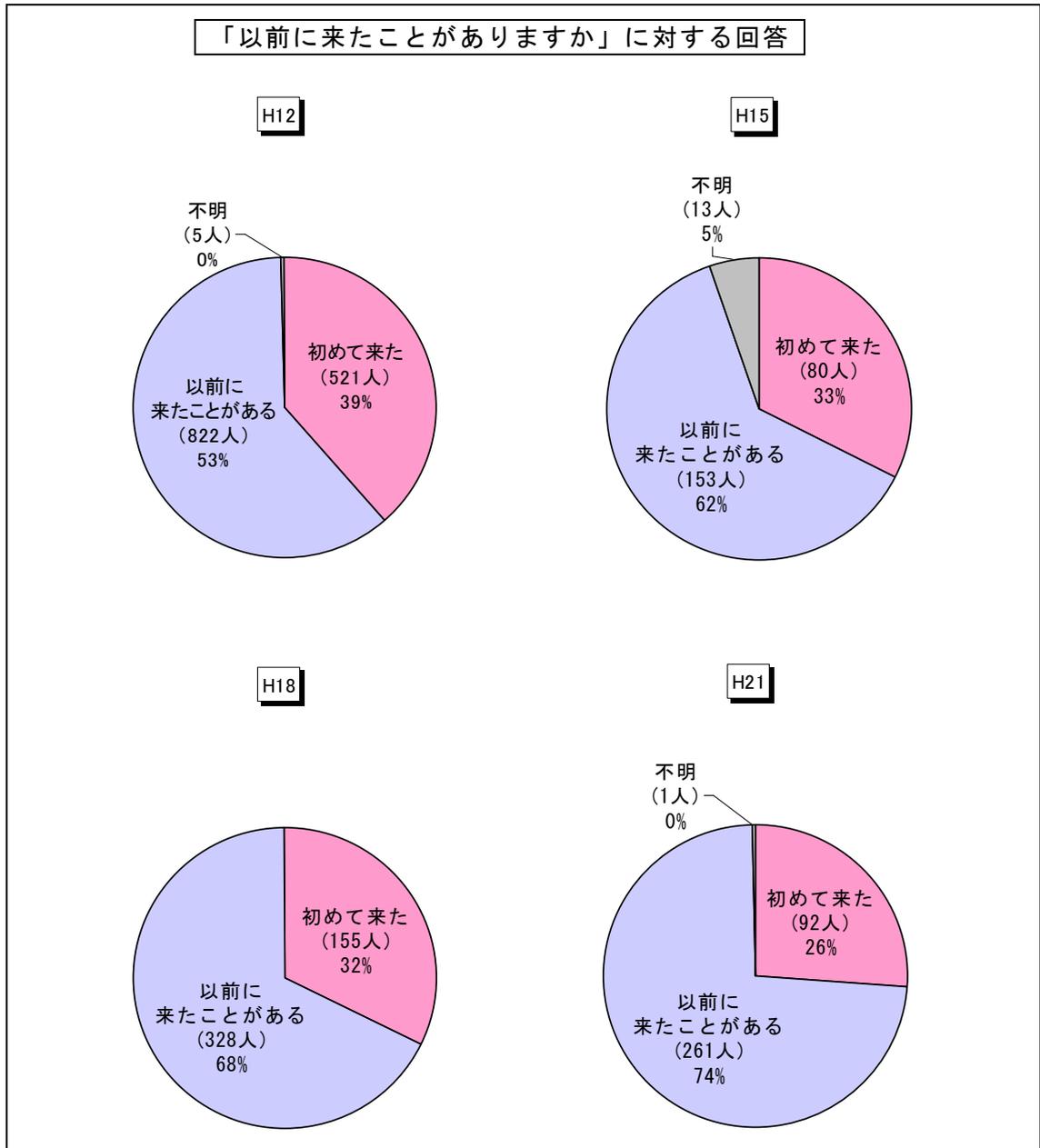
注) 明らかな書き間違いと思われるものは、現在の地名で集計した。

【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成21年度」】

図 7.6.1-3(4) 来訪者の居住地 (H21)

「以前に来たことがありますか」に対する回答を見ると、平成 15 年以降はリピーターが 60%以上を占めている。

日吉ダムは繰り返し訪れたい魅力を持ったダムであると考えられる。利用者の過去の来訪状況を図 7.6.1-4 に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成 12, 15, 18, 21 年度」】

図 7.6.1-4 利用者の過去の来訪状況

### (3) 利用状況

日吉ダムを訪れた主な目的は、平成12年は「釣り」が最も多く、次いで、「ダム見学」「温泉」「バーベキュー」「資料館・記念館」であった。

平成15年は「ダム見学」が最も多く、次いで、「新緑鑑賞」「バーベキュー」「釣り」「温泉」の順であった。

平成18年は「温泉」が最も多く、次いで、「バーベキュー」「キャンプ」「ダム見学」「トイレ・休憩」の順であった。

平成21年は、平成18年に続いて「温泉」が最も多く、次いで、「ダム見学」「バーベキュー」「トイレ・休憩」「レストラン・売店」の順であった。

利用目的を図7.6.1-5に示す。



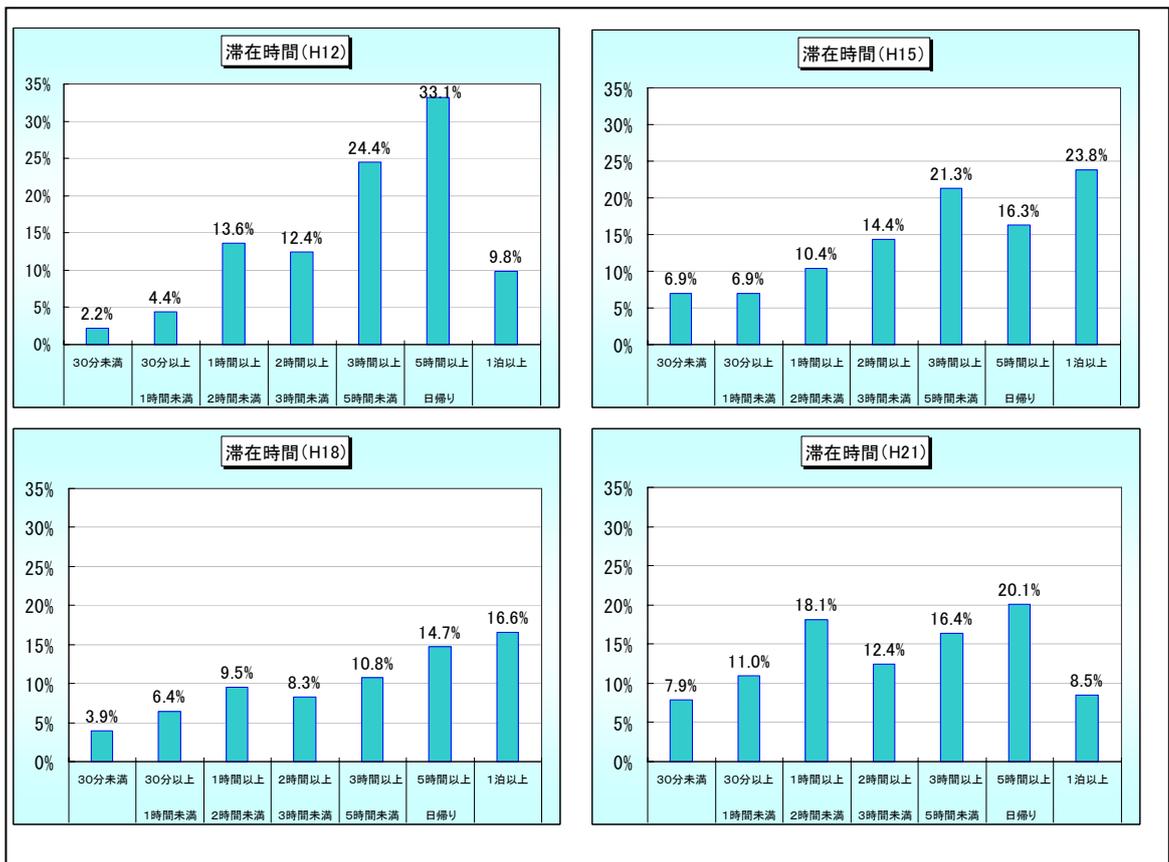
【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成12、15、18、21年度」】

図7.6.1-5 利用目的

滞在時間は、平成12年は、日帰りではあるが5時間以上滞在する利用者が全体の1/3程度を占めており、平成15年、平成18年は宿泊者が最も多く、それぞれ24%、17%近くを占めていた。平成21年は平成12年と同様、日帰りではあるが5時間以上滞在する利用者が、全体の1/5程度を占めていた。

日吉ダムは立ち寄り程度の利用より、ダム若しくはダム周辺施設を目的として訪れ、長時間滞在する利用形態であることが伺える。

利用者の滞在時間を図7.6.1-6に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成12, 15, 18, 21年度」】

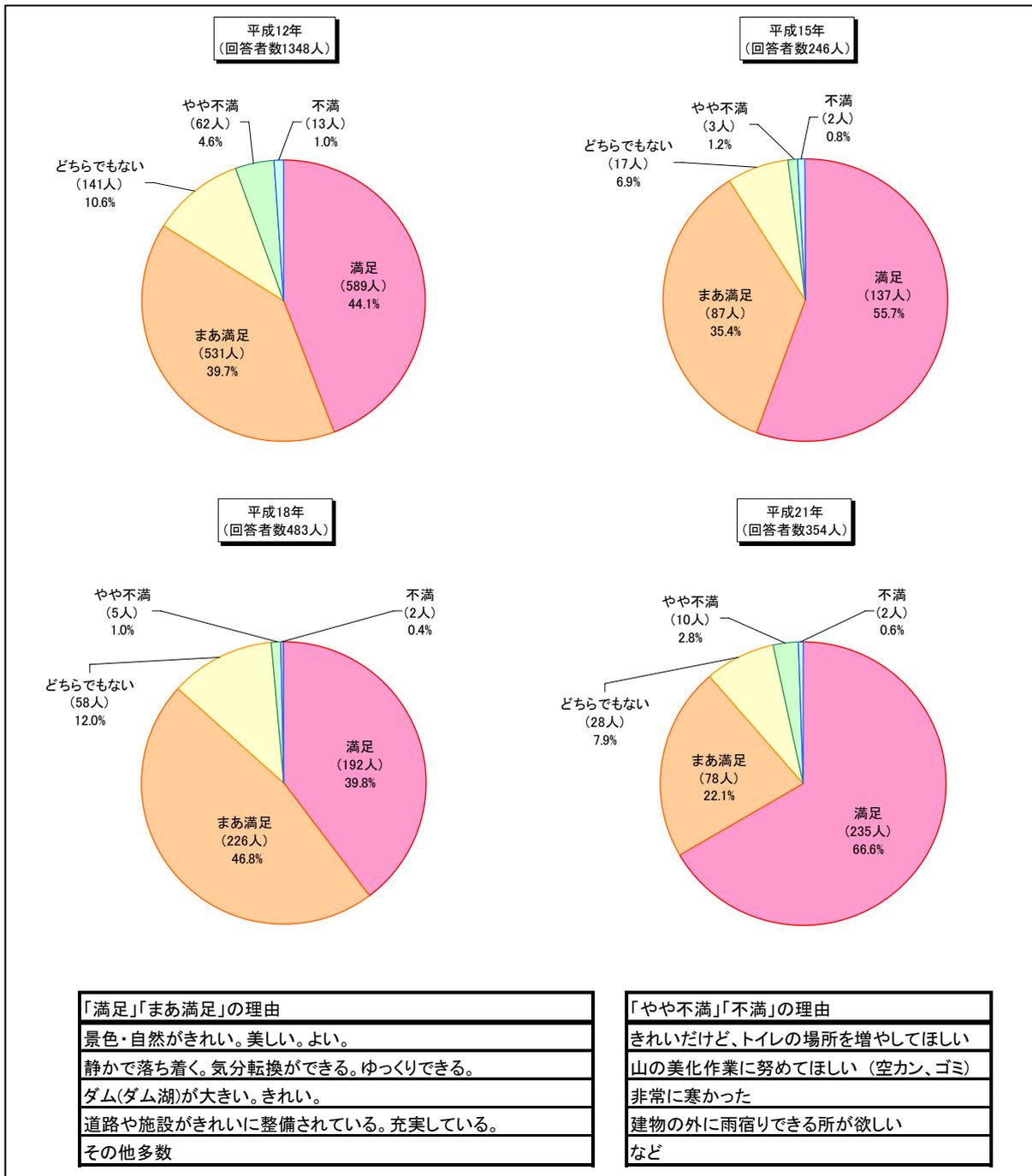
図7.6.1-6 利用者の滞在時間

#### (4) 利用者の感想

日吉ダムを利用した感想を聞いた結果では、「満足」「まあ満足」が80%以上を占めており、平成15年度以降、さらに満足度が高くなっている。

一方で、「やや不満」や「不満」という感想もあり、その理由として天候によるものや、施設に対する要望やゴミが気になるなどの声があり、今後の維持管理に留意することが重要であると考えられる。

利用者の感想を図7.6.1-7に示す。



【出典：日吉ダム ダム湖利用実態調査利用者アンケート結果「平成12、15、18、21年度」】

図7.6.1-7 利用者の感想

### 7.6.2 「水源地域整備事業に関する調査」の結果

日吉ダムでは、「水源地域整備事業に関する調査」を行い、流域住民のニーズや評価の把握を行った。

調査時期は平成13年2月10日から26日であり、調査にあたって対象とした地域、配布サンプル数、回収サンプル数等を表7.6.2-1に示す。

表 7.6.2-1 水源地域整備事業に関する調査のアンケート実施状況

対象市町村	調査対象地域	配布世帯数	配布サンプル数	回収サンプル数	回収率
亀岡市	全域	500	1000	296	30%
京都市	右京区、西京区				
園部町	全域				
旧八木町	以下を除く地域 (青戸・西田・井之尻・刑部・観音寺・北廣瀬・北屋賀・日置・氷所・屋賀・屋賀上地区(旧富本村)、神吉上・神吉下・上吉和田地区(旧神吉村))				
旧日吉町	以下を除く地域 (生畑・木住・中世木・殿田地区(旧世木村))				
旧京北町	以下を除く地域 (大字明石・下宇津・中地・柏原・栃本・弓槻地区(旧宇津))				

この調査では様々な調査項目があげられているが、このうち下記の項目についての日吉ダムの調査結果を整理した。

#### [ダムと日常生活との関連性]

##### ○ダムへの訪問経験

・「行ったことがある」が93.7%を占めている。

##### ○ダムへの訪問頻度

・「年に数回ぐらい」(46.8%)と「年に一回ぐらい」(27.1%)がほとんど。

##### ○ダムへの訪問目的

・「ドライブ」(43.5%)と「ダム本体の見学」(41.3%)が多く、「観光・行楽」(33.5%)、「資料館の見学」(27.5%)、「催し物・イベントへの参加、見学」(23.4%)が主なものである。主体的に何かを「する」というより、受身的な行動が多い、結果となっている。

##### ○催し物・イベントへの認知と参加経験・参加意向

・認知、参加経験、参加意向とも「日吉ふるさと祭り」が最も多く、次いで「日吉ダムマラソン」「2時間耐久三輪車レース」となっている。

## [ダム周辺の施設・環境に関する印象]

### ○ダム周辺の施設・環境に関する満足度

- ・周辺の施設・環境に対しては、「非常に満足」「まあ満足」を加えると 62.5%と非常に高い満足度を示している。

### ○ダム周辺の施設・環境に関する感想

- ・「ダム周辺道路」、「周辺の施設」、「景観」については、「非常に満足」と「まあ満足」を加えると 50%以上の満足度であり、特に「景観」については 70%以上となっている。低いのは「湖水面の利用」であり、21.6%となっている。

### ○ダム周辺の個別施設・イベントに関する満足度

- ・満足度の高い施設は「下流公園」「インフォギャラリー」「スプリングスひよし」「日吉ダム防災資料館（ビクターセンター）」である。特に「スプリングスひよし」は 60.6%と高い数値を示している。ついで「府民の森」「宇津峡公園」となっており、「サイクリング休憩施設」「梅ノ木谷公園」は低い数値(20~15%)となっている。

### ○ダムの湖水面に望む整備事業

- ・「親水エリアなど子供が安全に遊べる施設」「湖面に接近するための道路、遊歩道の整備」がおおく、次いで「釣りのための施設」「観光遊覧船の就航」等が望まれている。

## [環境保全に関する意識]

### ○環境保全のための維持管理に対して、許容できる年間の自己負担額

- ・全体的に負担してもかまわないが7割程度を占め（100~1000円が多い）、環境問題に対する世論の高まりを反映していると思われる。

## 7.7 まとめ

### (1) 水源地域動態に関するまとめ

- 日吉ダムは、「地域に開かれたダム」の第 1 号として、地域に密着した周辺施設が整備され、地元自治体も観光やレクリエーションの拠点と位置づけ、ダムを核とした地域活性化が図られている。
- 日吉ダム貯水池周辺は、余暇活動・学習・野外活動等の諸施設に年間 40～50 万人もの人々が訪れ、散策や釣りなどの目的にも利用されている。ダム湖利用実態調査では、全国の調査対象ダム約 100 ダム中、常に第 3 位前後の利用者を記録しており、広域市民の交流・憩いの場となっている。
- ダム周辺では、「水源地域ビジョン」に基づき地域と連携した多くのイベントが開催されており、ダム管理者と周辺自治体等との良好な連携が図られている。

### (2) 今後の方針

引き続き、ダム管理者として、ダム周辺の施設を活かした活動、イベントへの参加等に積極的に取り組むとともに、水源地域ビジョンにおいて策定された計画を、関係自治体・地元・NPOなどと共に推進していく。

## 7.8 文献資料リスト

表 7.8-1 「7. 水源地域動態」に使用した文献・資料リスト

NO.	文献・資料名	発行者	発行年月	備考
7-1	日吉ダムパンフレット	日吉ダム管理所		
7-2	平成 20 年度流域環境調査報告書	日吉ダム管理所	平成 21 年 3 月	
7-3	地域に開かれたダム整備計画書	京都府日吉町・京北町・八木町	平成 7 年 2 月	
7-4	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-5	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-6	日吉ダム水源地域ビジョン	日吉ダム水源地域ビジョン協議会	平成 14 年 3 月	
7-7	南丹市ホームページ	南丹市		
7-8	建設リサイクルの実施状況	日吉ダム管理所		

表 7.8-2 「7. 水源地域動態」に使用したデータ

NO.	データ名	データ提供者 または出典	データ発行年月	備考
7-1	国勢調査結果（人口）			
7-2	平成 18 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 19 年 2 月	
7-3	平成 21 年度 河川水辺の国勢調査結果〔ダム湖版〕ダム湖利用実態調査編	国土交通省河川局 河川環境課	平成 22 年 2 月	
7-3	周辺施設の入込み数	日吉ダム管理所		
7-4	日吉ダム平成 21 年次報告書	日吉ダム管理所	平成 22 年度	